



精華町まちづくりアンケート 分析結果レポート

令和7年度 大阪成蹊大学 x 精華町 共同研究

2025年6月30日

目次

精華町まちづくりアンケートに関する分析結果	1
単純集計結果 (依頼分)	2
年齢別・居住地域別の精華町について (依頼分)	27
「現在の満足度」と「今後の重要度」の関係 (依頼分)	38
中程度以上の連関があるクロス集計の抜粋	39
回答傾向の類似性に基づくネットワーク図	41
テンソル分解に基づく地域コミュニティ活動別の属性分析	43

精華町まちづくりアンケートに関する 分析結果

【精華町まちづくりアンケートの概要】

目的：精華町のまちづくりについて、**住民の満足度・重要度の把握**

対象：精華町在住・在勤(16歳以上)の**LINE公式アカウント登録者**

期間：令和7年4月1日～4月14日

回答：有効回答数は**410件**

項目：質問項目は下記のような全13項目(92問)

01. 性別は次のうちどれですか。

選択肢：男性、女性、無回答

02. 年齢は次のうちどれですか。

選択肢：16～19歳、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70～79歳、80歳以上

03. お住まいのある小学校区はどちらですか。

選択肢：精北、川西、山田荘、東光、精華台

04. 精華町が好きですか。

選択肢：とても好き、好き、どちらともいえない、あまり好きではない、好きではない

05. 精華町に住みたいですか。

選択肢：そう思う、まあそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない

06. 精華町に関する情報を主にどこから得ていますか。

選択肢：精華町広報誌「華創」、町のホームページ、自治会回覧板、SNS(町のFacebook・Xなど)、京都府民だより

07. 自治会など地域コミュニティ活動への参加状況はいかがですか。

選択肢：積極的に参加している、なるべく参加している、あまり参加していない、最低限の参加にとどまっている、参加したことがない

08. 「せいか365」をご存じですか。

選択肢：知っている、知らない

09. 精華町は健康づくりに取り組みやすいまちだと思いますか。

選択肢：そう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、そう思わない

10. 地域コミュニティ活動で参加してみたい活動をすべて選んでください。

選択肢：学習・教育活動、高齢者支援活動、福祉活動、防災活動、環境美化活動、地域づくり活動、文化スポーツ活動、子育て支援活動、その他

11. あなたは、日常生活で何か環境に配慮した行動をしていますか。

選択肢：水や電気をむだ使いしないようにする(節水・節電)、物を大切に使う、食べ残しが出ないようにしている、ごみの分別、資源回収に家族で協力する、余分な包装を断わる、買い物袋を持参する、家族で出かけるときは、できるだけ公共交通機関を利用する、地域の清掃活動に参加する、環境問題について家族と話し合う、何もしていない

12. 精華町の取り組みについて、以下に記載している「**キーワード(40種類)**」に対する現在の「**満足度**」と、これからのまちづくりの「**重要度**」についておたずねします。

キーワード：学研都市の推進、文化芸術・科学技術、企業誘致、地域創生、農業、商工・サービス業、観光、市街地形成・景観、環境保全、資源循環・エネルギー、道路、公共交通、住宅、上水道、下水道、健康づくり、地域医療、医療・保険、子育て環境、子育て支援、高齢福祉、障害福祉、地域福祉、浸水対策、地域防災・消防、交通安全・防犯、教育振興、教育環境、歴史・文化財、文化活動、スポーツ活動、図書館、人権、男女共同参画、国際交流・平和、公共的活動支援、コミュニティ・交流連携行政経営、窓口サービス、情報

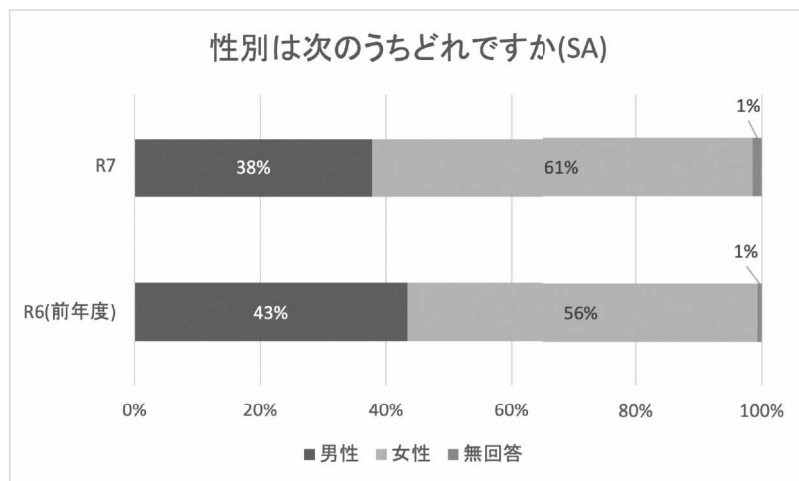
13. 京阪奈新線新祝園ルートの実現は精華町の将来の発展にとって必要だと思いますか。

選択肢：そう思う、まあそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない

単純集計結果

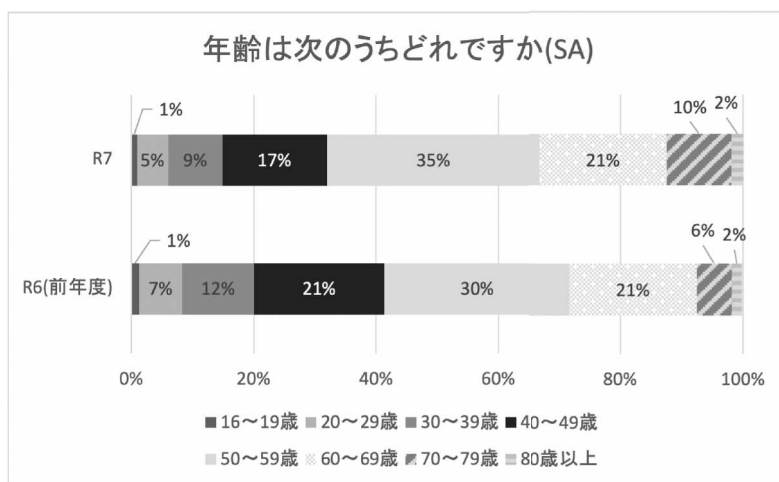
質問項目「01. 性別は次のうちどれですか。」と「02. 年齢は次のうちどれですか。」についての集計結果を示す。

【01】



性別に関する回答者割合は、「女性」が61%と過半数を占め、「男性」は38%、無回答は1%であった。前年度と比較すると、「男性」の割合は5ポイント減少しており、「女性」の割合がやや増加している点に留意が必要である。

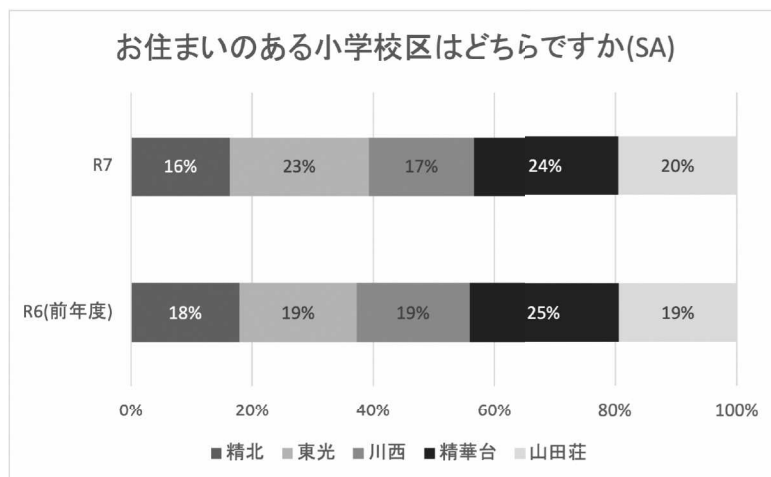
【02】



回答者の年齢層で最も割合が高いのは「50～59歳」で、全体の35%を占めている。さらに、「60～69歳」(21%)、「70～79歳」(10%)、「80歳以上」(2%)を加えると、50歳以上の回答者は全体の68%に達し、高齢層の意見が強く反映されたアンケート結果であるといえる。また、前年度と比較すると、「16～19歳」「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」の各若年～中年層の割合はいずれも減少しており、若年層の参加率低下が見られる。

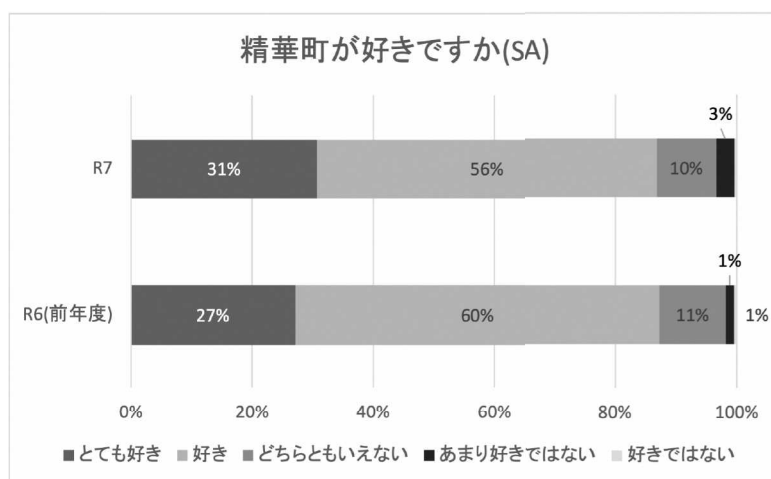
質問項目「03. お住まいの小学校区はどちらですか。」「04. 精華町が好きですか。」「05. 精華町に住み続けたいですか。」についての集計結果を示す。

【03】



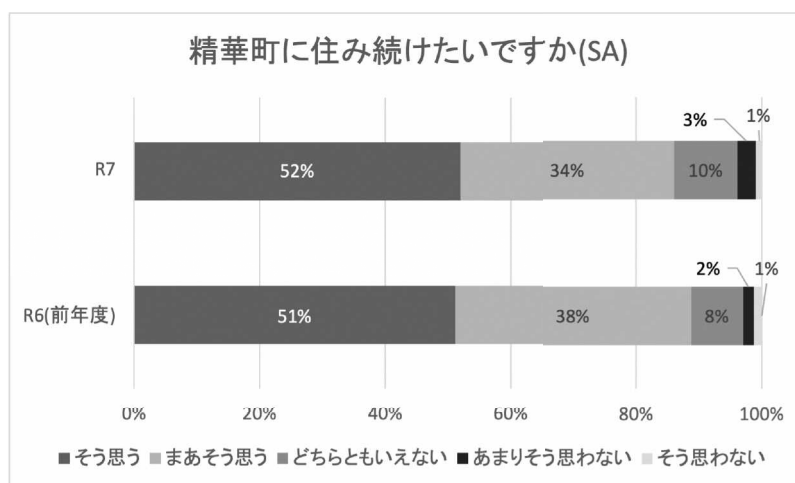
回答割合が最も大きいのは「精華台」の24%であるが、回答者に大きな偏りはなく、全体として5つの小学校区に比較的均等に分布している。前年度と比較して、回答割合はほぼ変化していない。

【04】



「とても好き」と「好き」を合わせた好意的回答は87%に達し、多くの回答者が精華町に好感を持っていることがわかる。前年度と比較しても、ほぼ同等であり、全体的な町に対する評価は安定している。

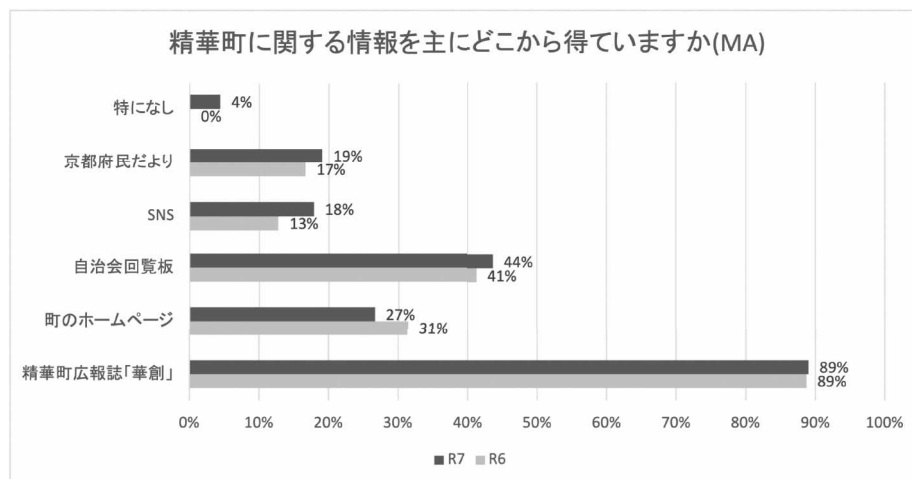
【05】



「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答は86%となっており、精華町に住み続けたいと考える人が多数を占めている。前年度では89%となっているが、大きな傾向変化は見られない。

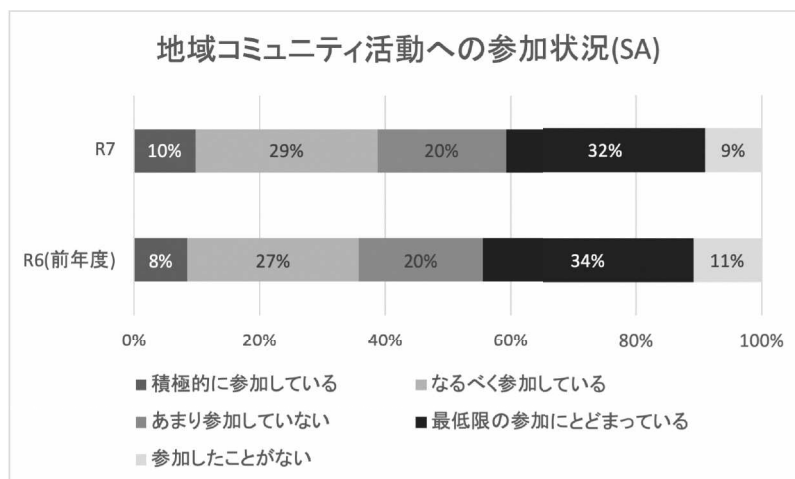
質問項目「06. 精華町に関する情報を主にどこから得ていますか。」「07. 自治会など地域コミュニティ活動への参加状況はいかがです。」「08. 「せいか365」をご存じですか。」についての集計結果を示す。

【06】



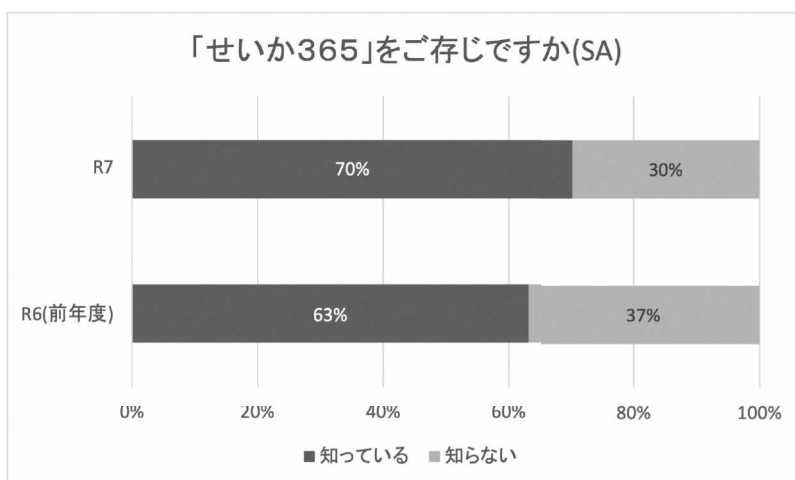
最も多くの回答が集まった情報源は、「精華町広報誌「華創」」で、R6・R7ともに89%と圧倒的な割合を示した。次いで「自治会回覧板」(R7: 44%)、「町のホームページ」(R7: 27%)が続く。SNSや京都府民だよりは2割未満にとどまり、前年度と比較して各項目に大きな変化は見られなかった。

【07】



地域コミュニティ活動については、「最低限の参加にとどまっている」が32%で最も多く、依然として消極的な傾向が見られる。一方で、「積極的に参加している」と「なるべく参加している」を合わせた積極的参加層は、R6の35%からR7では39%へと4ポイント増加しており、参加意識のわずかな高まりも確認された。

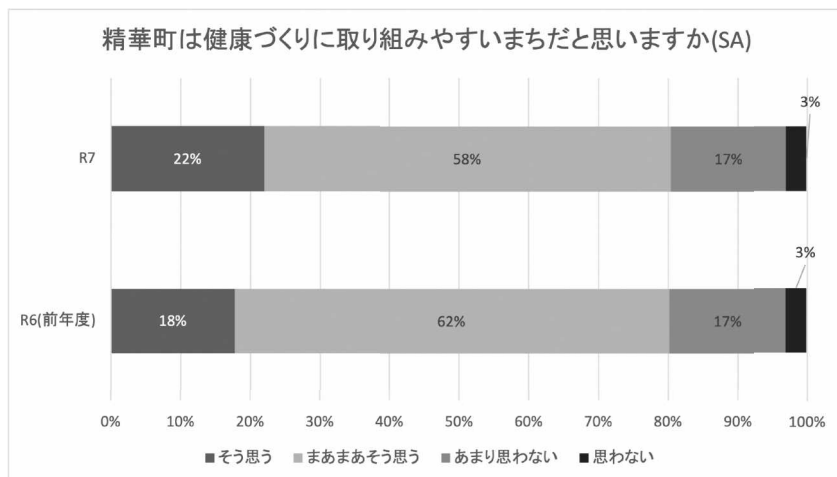
【08】



「せいか365」を「知っている」と回答した人の割合はR7で70%となり、前年度の63%から7ポイント上昇した。住民への認知が徐々に広がっている様子がうかがえる。

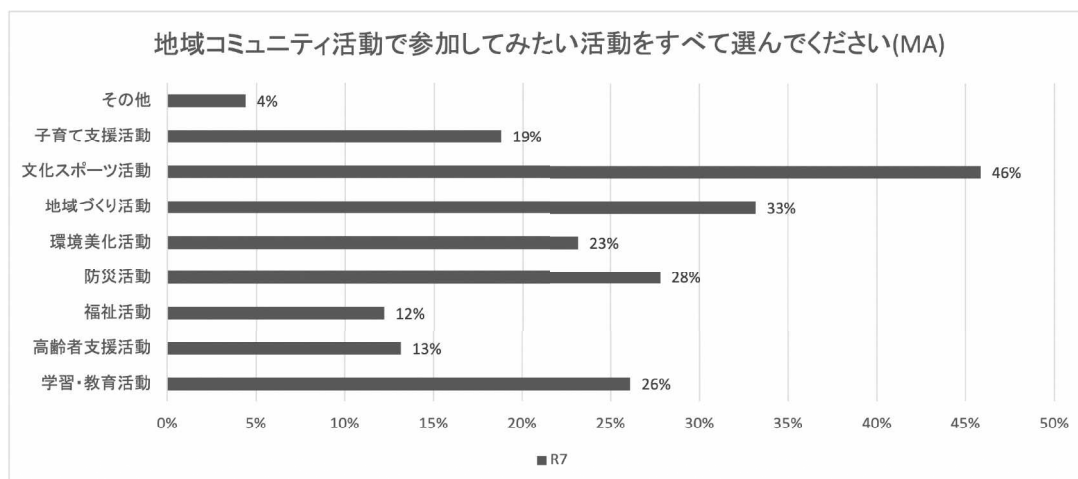
質問項目「09. 精華町は健康づくりに取り組みやすいまちだと思いますか。」「10. 地域コミュニティ活動で参加してみたい活動をすべて選んでください。」についての集計結果を示す。

【09】



「そう思う」(22%)と「まあまあそう思う」(58%)を合わせた肯定的な回答は80%にのぼり、精華町が健康づくりに取り組みやすいと感じている人が多数派であることがわかる。前年度も同様に80%(18%+62%)であり、全体の傾向に大きな変化は見られなかった。

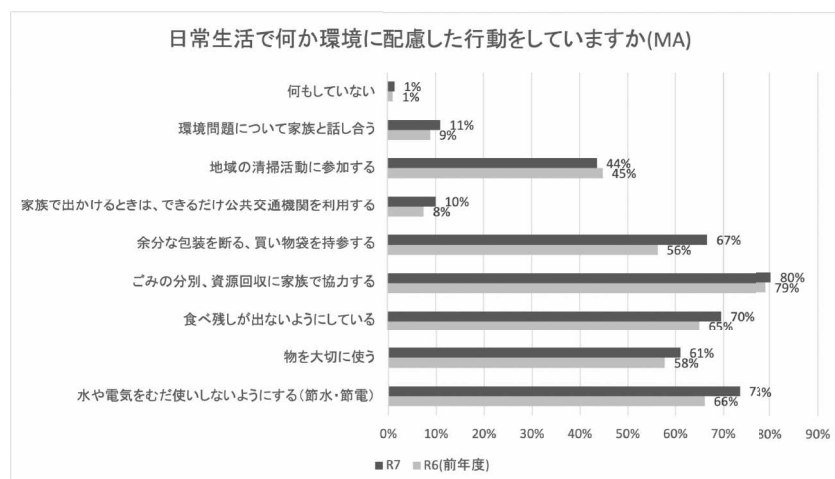
【10】



参加してみたい地域コミュニティ活動として最も多く挙げられたのは「文化スポーツ活動」で、全体の46%にのぼった。次いで「地域づくり活動」(33%)、「防災活動」(28%)などが続く。一方、最も少なかったのは「福祉活動」(12%)であり、「その他」(4%)を除けば最下位であった。本設問は令和7年度から新設されたため、前年度との比較はできない。

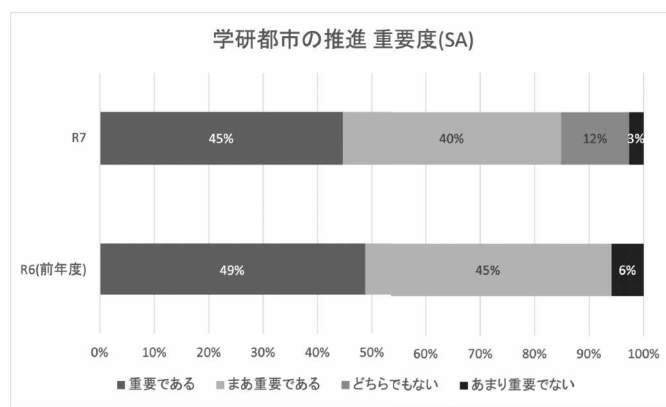
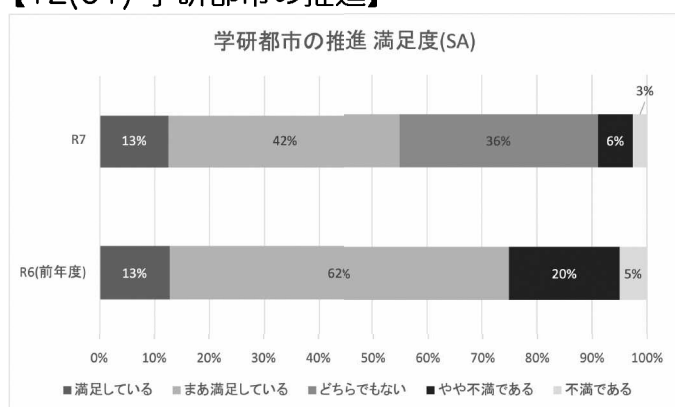
質問項目「11. あなたは、日常生活で何か環境に配慮した行動をしていますか。」「12. 精華町の取り組みについて、以下に記載している「キーワード(40種類)」に対する現在の「満足度」と、これからのまちづくりの「重要度」についておたずねします。」についての集計結果を示す。

【11】



日常生活における環境配慮行動として最も多く選ばれたのは、「ごみの分別、資源回収に家族で協力する」で、全体の80%にのぼった。一方で、「何もしていない」を除くと、最も回答割合が低かったのは「家族で出かけるときは、できるだけ公共交通機関を利用する」で10%にとどまった。前年度と比較して、各項目の割合に大きな変動はなく、行動傾向はおおむね安定している。

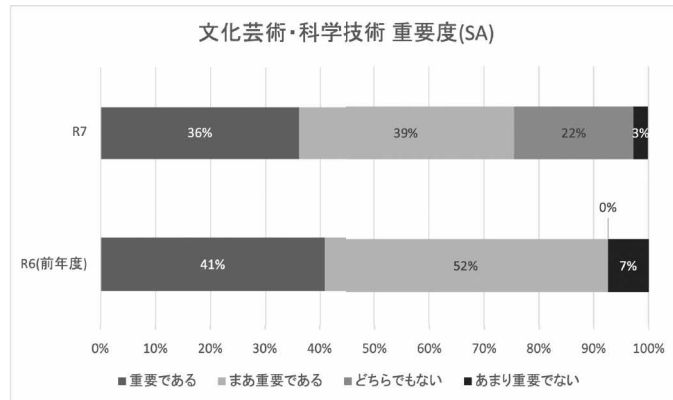
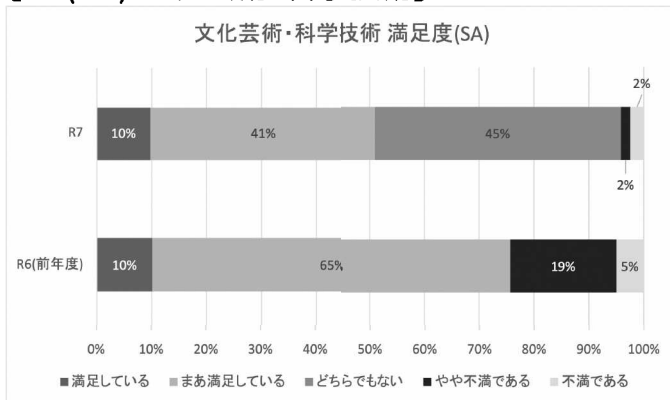
【12(01) 学研都市の推進】



満足度:「満足している」(13%)と「まあ満足している」(42%)を合わせた満足層は55%に達し、過半数が学研都市の推進に対して肯定的な評価を示している。R7では「どちらでもない」が新たに選択肢として追加されたため、前年度との単純な比較は難しいが、R6における「まあ満足している」(62%)と「やや不満である」(20%)が、それぞれ一部「どちらでもない」へ移行した可能性が示唆される。

重要度:「重要である」(45%)と「まあ重要である」(40%)を合わせると、合計85%が学研都市の推進を重視していることがわかる。R7で新たに追加された「どちらでもない」(12%)の影響により、前年度で高かった「重要である」(49%)および「まあ重要である」(45%)はそれぞれ若干減少しているが、すべての項目が一様にわずかに低下しており、特定の選択肢に偏った移行傾向は見られない。

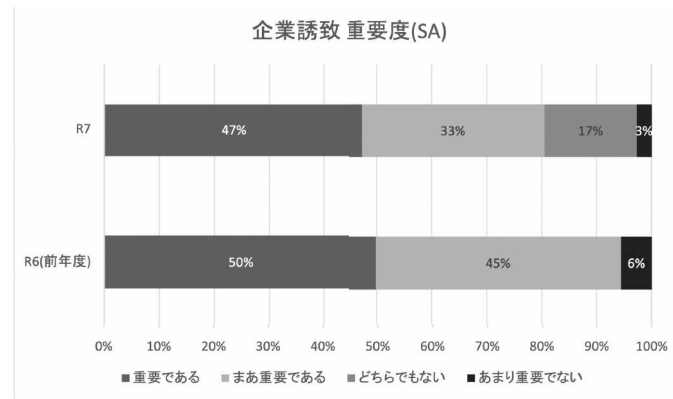
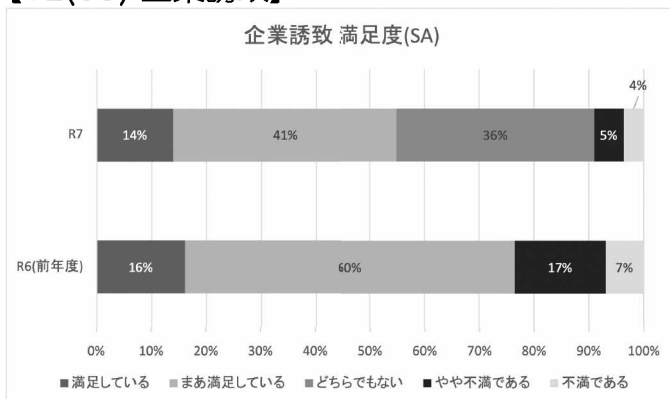
【12(02) 文化芸術・科学技術】



満足度:「満足している」(10%)と「まあ満足している」(41%)を合わせた満足層は51%であり、回答者の半数程度が現状に一定の満足を示している。一方で、「どちらでもない」は45%と最も高く、評価が定まっていな層も多いことが窺える。令和7年度(では「どちらでもない」が新たに選択肢に加えられたため、前年度の「まあ満足している」および「やや不満である」から一部が移行した可能性がある。

重要度:「重要である」(36%)と「まあ重要である」(39%)を合わせた肯定的回答は75%となり、多くの住民が文化芸術・科学技術の推進を重要視していることが読み取れる。前年度と比べ、「どちらでもない」が22%に上った一方で、「まあ重要である」は52%からやや減少しており、一部が移行したと考えられる。

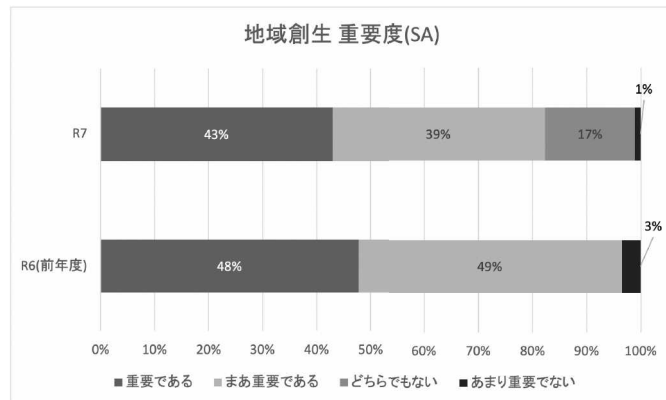
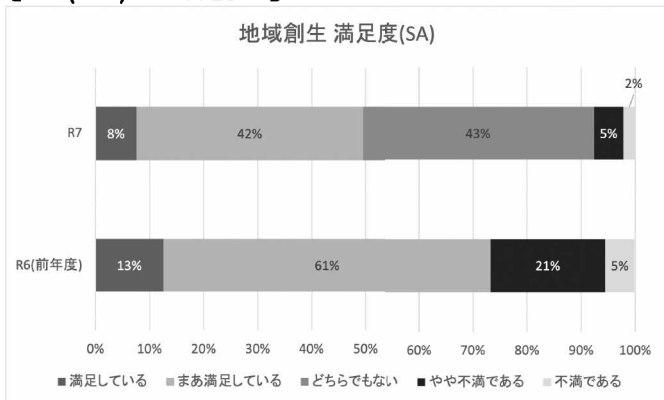
【12(03) 企業誘致】



満足度:「満足している」(14%)と「まあ満足している」(41%)を合わせた満足層は55%となっており、前年度とほぼ同等であるが、「どちらでもない」(36%)が新たに追加されたことで評価の中間層が増加したと考えられる。R6では「やや不満である」(17%)の割合が高かったが、R7では5%にとどまっており、この層の一部が「どちらでもない」へ移行した可能性もある。

重要度:「重要である」(47%)と「まあ重要である」(33%)を合わせた肯定的回答は80%に達し、企業誘致の推進が依然として重視されていることがわかる。R6に比べ、「まあ重要である」が45%からやや減少し、「どちらでもない」(17%)が一定数を占めているが、全体としては高い関心が維持されている。

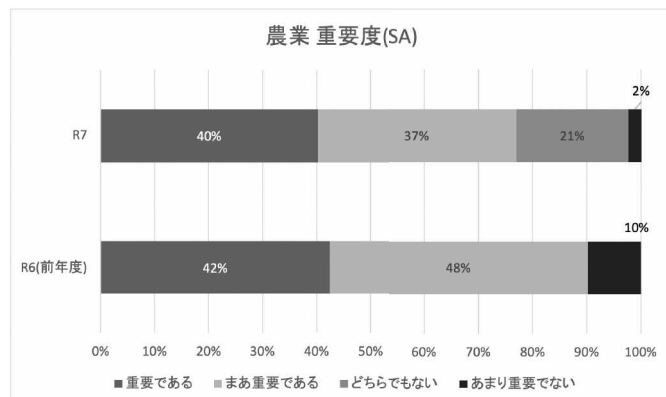
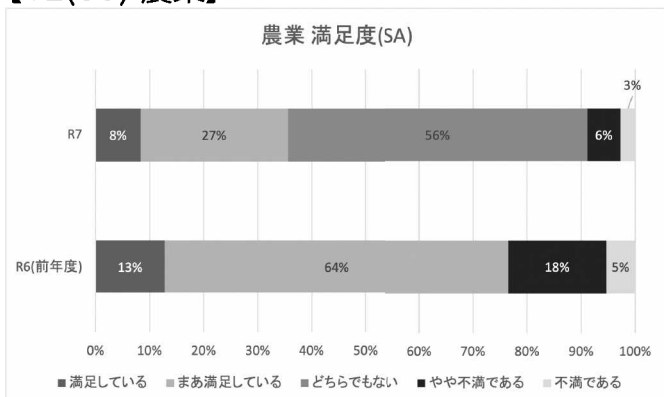
【12(04) 地域創生】



満足度:「どちらでもない」が43%と最も高く、地域創生に対して明確な評価を持たない層が多いことがうかがえる。一方、「満足している」(8%)と「まあ満足している」(42%)を合わせた満足層は50%である。R7では「どちらでもない」の選択肢が新たに追加されており、前年度で「まあ満足している」(61%)や「やや不満である」(21%)と回答した層の一部が移行した可能性がある。

重要度:「重要である」(43%)と「まあ重要である」(39%)を合わせた重要視層は82%にのぼり、多くの住民が地域創生を重視していることが示されている。一方、「どちらでもない」は17%であり、前年度の「まあ重要である」(49%)と比べて割合がやや分散していることから、一部の回答が中立層に移行した可能性がある。

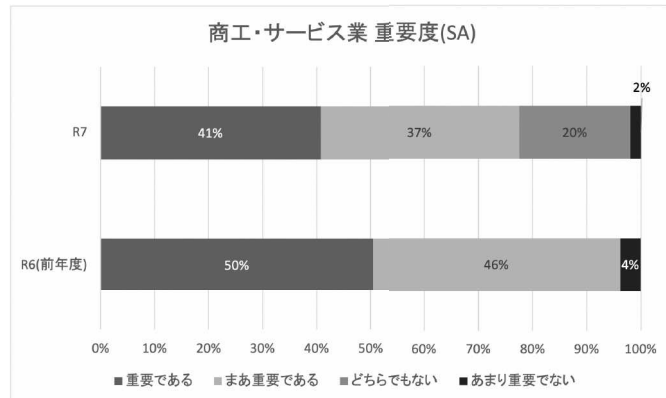
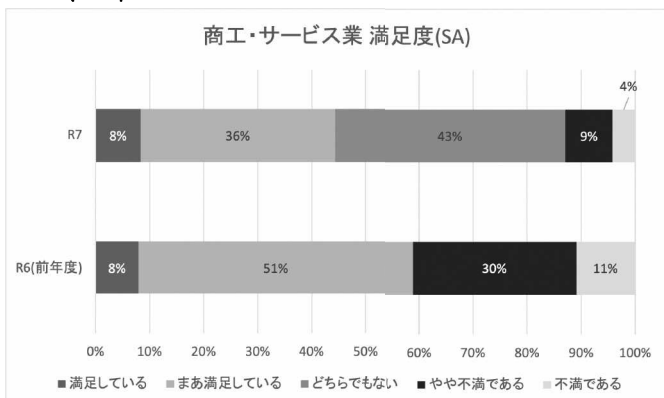
【12(05) 農業】



満足度:「どちらでもない」が56%と過半数を占めており、農業施策に対する評価が定まっていない住民が多いことが読み取れる。一方、「満足している」(8%)と「まあ満足している」(27%)を合わせた満足層は35%であり、前年度(R6)の満足層(13%+64%=77%)と比べて大幅に減少している。「やや不満である」の割合もR6では18%であったが、R7では6%に減少しており、これらの変化の一部は「どちらでもない」への移行と推察される。

重要度:「重要である」(40%)と「まあ重要である」(37%)の合計は77%で、依然として農業の重要性を感じている住民が多いことがわかる。前年度では90%(42%+48%)であったため、R7では「どちらでもない」(21%)が一定数を占めるようになっており、重要性の認識がやや分散している傾向が見られる。

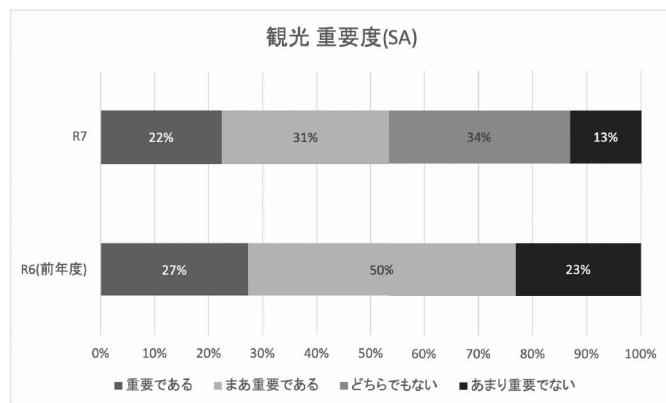
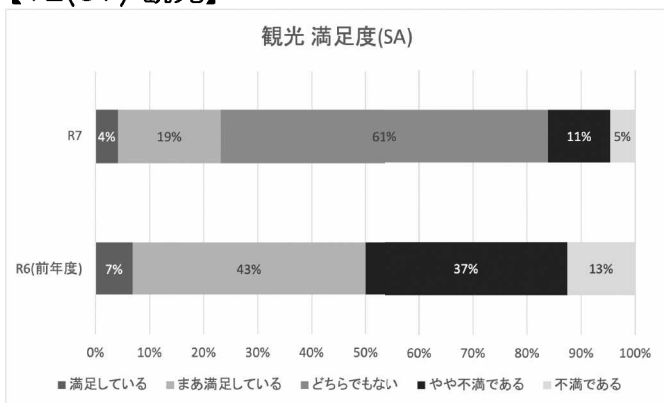
【12(06) 商工・サービス業】



満足度: R7年度の「どちらでもない」回答が最多(43%)となっており、R6年度と比べて満足・不満いずれにも偏らない意見が増加。R6年度では「まあ満足している(51%)」と「やや不満である(30%)」の回答が多く、明確な評価傾向が見られた。R7では中立的評価に移行した傾向がうかがえ、R6の「まあ満足」「やや不満」「不満」層が「どちらでもない」へ分散したと考えられる。

重要度: 「重要である」と「まあ重要である」の合計はR7で78%(R6は96%)と依然高いが、減少傾向にあり、「どちらでもない」も20%に拡大。R6の「まあ重要である」回答の一部が「どちらでもない」に移行した可能性が高く、全体的に関心度がやや薄れてきた兆候がある。

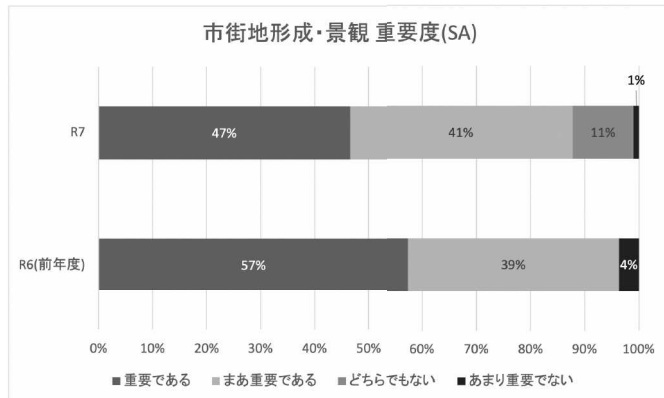
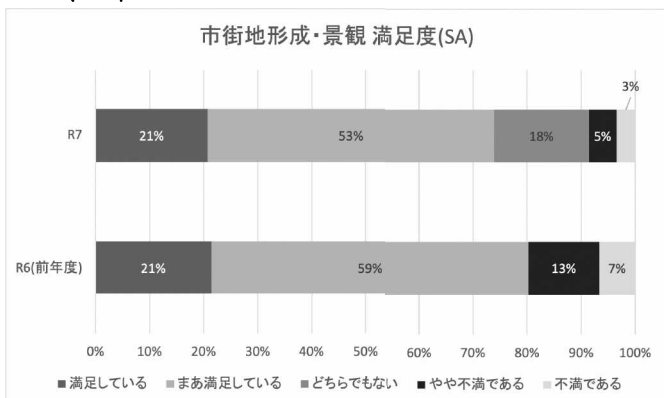
【12(07) 観光】



満足度: R7で「どちらでもない」が61%と圧倒的多数となり、満足・不満いずれの評価も控える傾向が強まっている。R6では「まあ満足(43%)」「やや不満(37%)」と評価が分かれていたが、R7では評価が曖昧化した可能性が示唆される。

重要度: 「重要である」と「まあ重要である」の合計はR7で53%と、R6の77%と比較して大きく減少。特に「どちらでもない」の割合が34%と大きく、観光の位置づけが不明瞭になりつつある点に注意が必要。

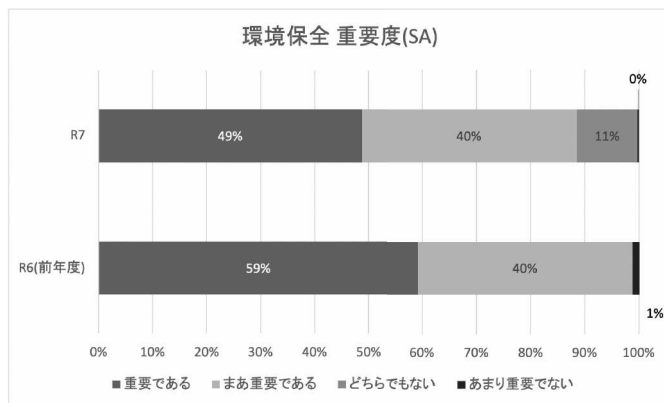
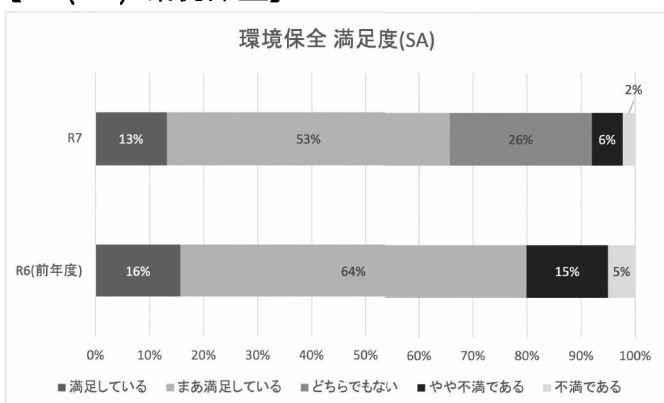
【12(08) 市街地形成・景観】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」を選択した割合の合計は74%に達しており、多くの回答者が満足している様子がうかがえる。R7では新たに「どちらでもない」という選択肢が追加されたが、前年度と比較すると、R6で「まあ満足している」または「やや不満である」と回答していた一部が、R7では「どちらでもない」へ移行した可能性が示唆される。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」を選択した割合の合計は88%にのぼり、引き続き高い関心が寄せられていることが読み取れる。R6と比較すると、「重要である」「まあ重要である」と回答していた一部が「どちらでもない」に移行した可能性が考えられる。

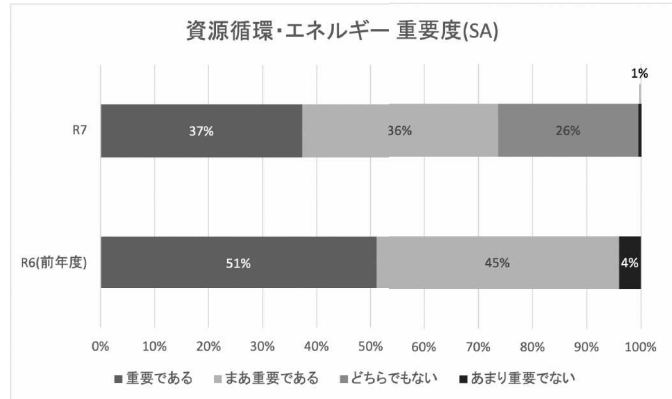
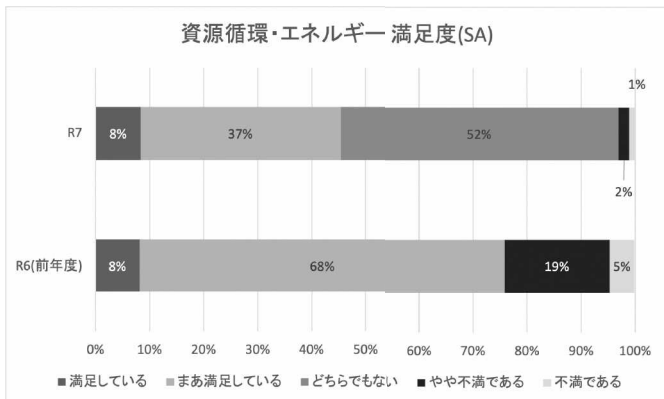
【12(09) 環境保全】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」を選択した割合の合計は66%で、過半数の回答者が満足していることがわかる。R7では「どちらでもない」が新設されたことにより、前年度において「まあ満足している」または「やや不満である」と回答していた層の一部が「どちらでもない」へと移行した可能性が示唆される。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」を選択した割合の合計は89%に達し、依然として環境保全が高い優先事項として認識されていることがわかる。R7では「重要である」の割合は前年より減少し、「まあ重要である」や他の選択肢へと移行した可能性がうかがえる。

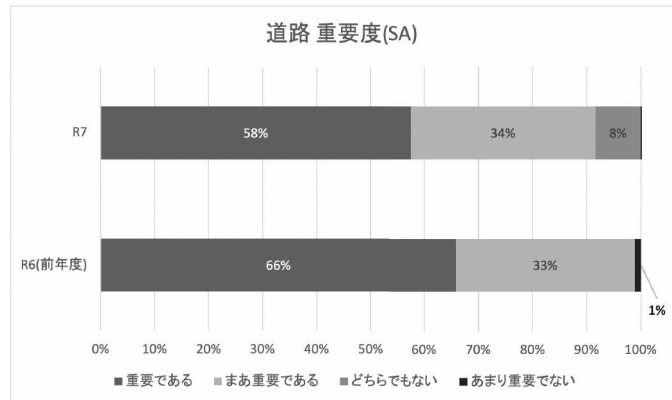
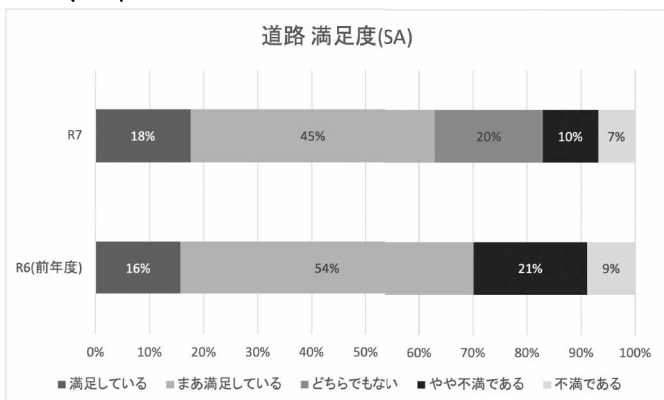
【12(10) 資源循環・エネルギー】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」を合わせた割合は45%で、過半数には届かず、「どちらでもない」が最も多い52%を占めている。R6と比較すると、「まあ満足している」および「やや不満である」と回答していた層の一部が、R7で「どちらでもない」を選択した可能性がある。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」の合計は73%で、多くの回答者が重要性を認識していることがわかる。R6では「重要である」と「まあ重要である」の合計が96%とさらに高い水準であったが、R7では「どちらでもない」が26%となっており、重要度判断を保留する層が一定数存在することがうかがえる。

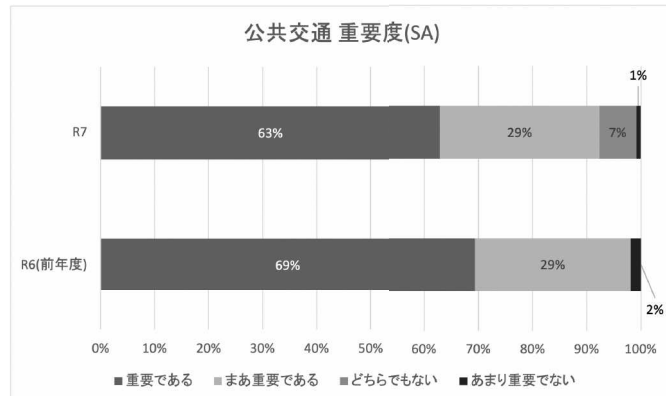
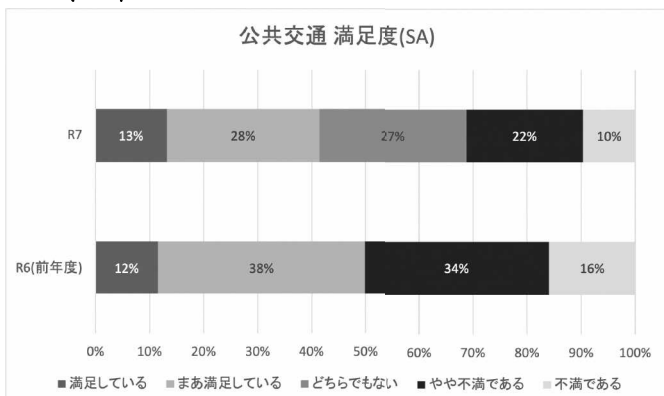
【12(11) 道路】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」の合計は63%で、全体として多くの回答者が満足していることがわかる。R6と比較すると、「まあ満足している」や「やや不満である」と回答していた一部が、R7において「どちらでもない」に移行した可能性がある。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」の合計は92%と高く、多くの回答者が道路の重要性を認識している。R6では「重要である」の割合がより高く、R7ではその一部が「どちらでもない」に移行した可能性がある。

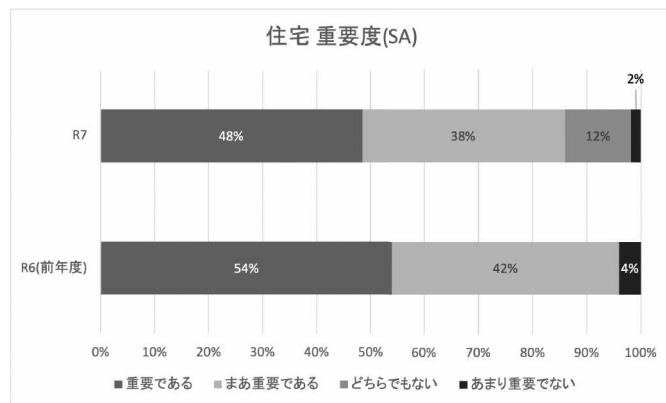
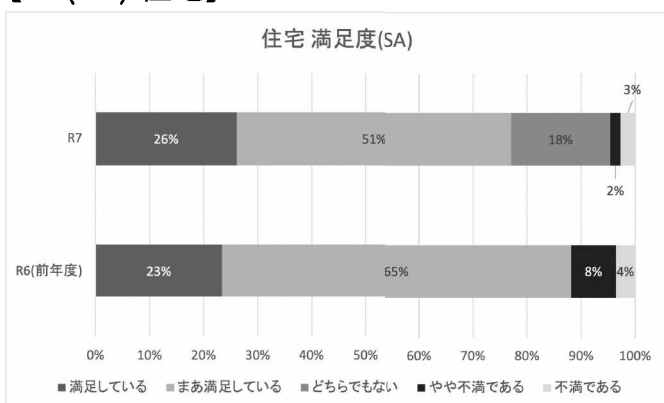
【12(12) 公共交通】



満足度:「満足している」「まあ満足している」と回答した割合の合計は41%であり、ポジティブな回答は過半数に届いていない。「どちらでもない」「やや不満である」「不満である」の合計は59%であり、全体としては満足度が低い傾向がうかがえる。R6と比較すると、「まあ満足している」「やや不満である」と回答していた層の一部が、「どちらでもない」へと移行した可能性が考えられる。

重要度:「重要である」「まあ重要である」と回答した割合の合計は92%と非常に高く、公共交通が重要と考えられていることが明らかである。R6と比べて「重要である」の割合がやや減少し、「どちらでもない」や「あまり重要でない」の回答がわずかに増加している点にも留意が必要である。

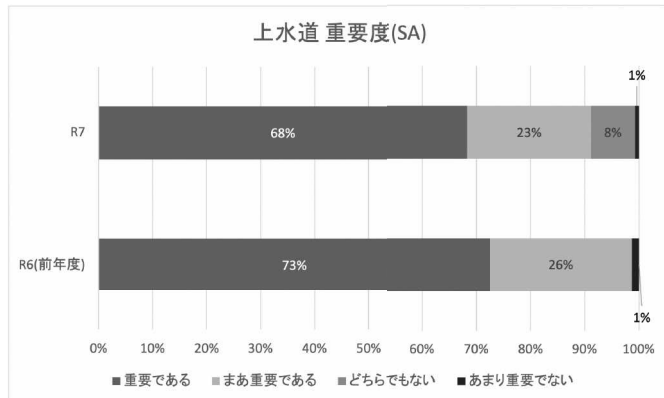
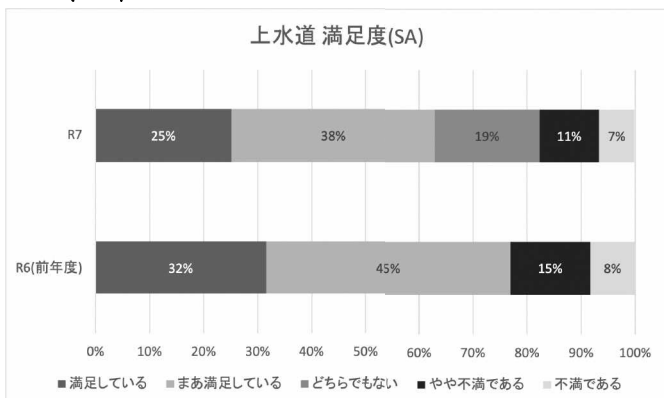
【12(13) 住宅】



満足度:「満足している」「まあ満足している」と回答した割合の合計は77%に達しており、住宅に対する満足度は比較的高いといえる。R6と比較して、「まあ満足している」や「やや不満である」と回答していた層の一部が、「どちらでもない」に移行した可能性がある。

重要度:「重要である」「まあ重要である」と回答した割合の合計は86%となっており、住宅の重要性が広く認識されていることがわかる。R6からR7にかけて、「重要である」の割合が減少し、「どちらでもない」や「あまり重要でない」が増加している点は注視すべきである。

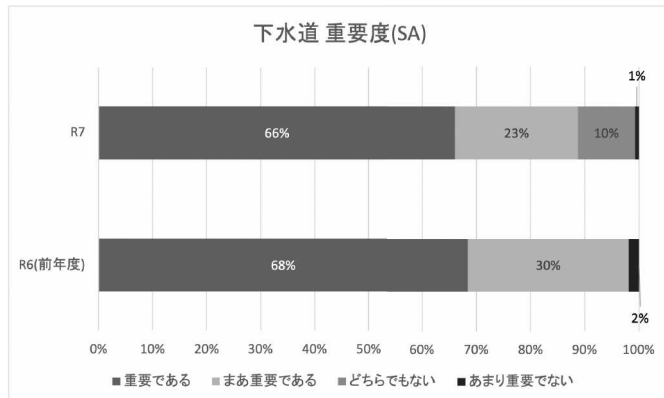
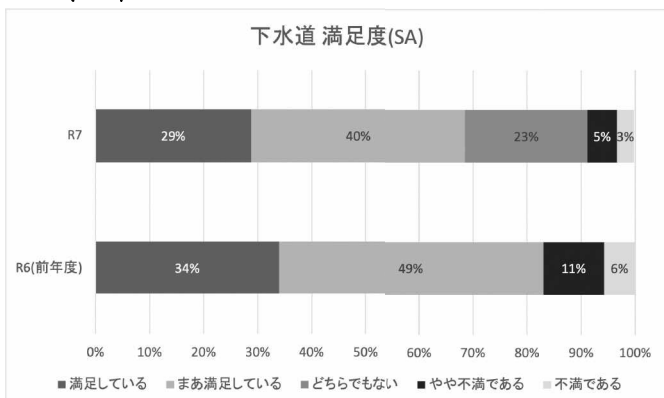
【12(14) 上水道】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」を合わせた割合はR7で63%(25%+38%)と、R6の77%(32%+45%)から減少しており、満足度がやや低下したことが読み取れる。R7では新たに「どちらでもない」の選択肢が追加され19%がこれを選んでおり、R6で「満足している」や「まあ満足している」と回答していた層の一部が移行した可能性がある。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」の合計はR7で91%(68%+23%)、R6では99%(73%+26%)と、わずかに低下している。R7で「どちらでもない」が8%となっている点から、R6で「まあ重要である」と回答していた層の一部が移行したと考えられる。

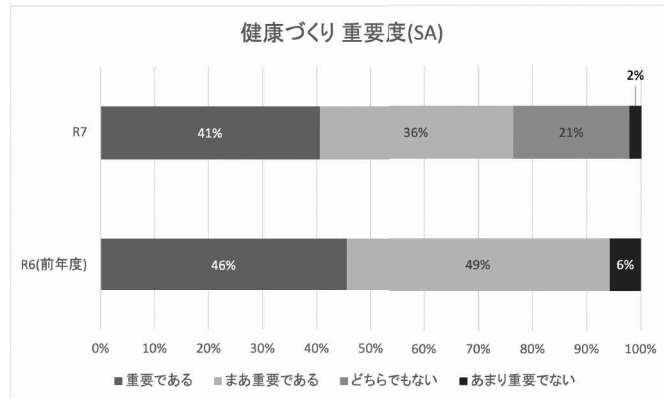
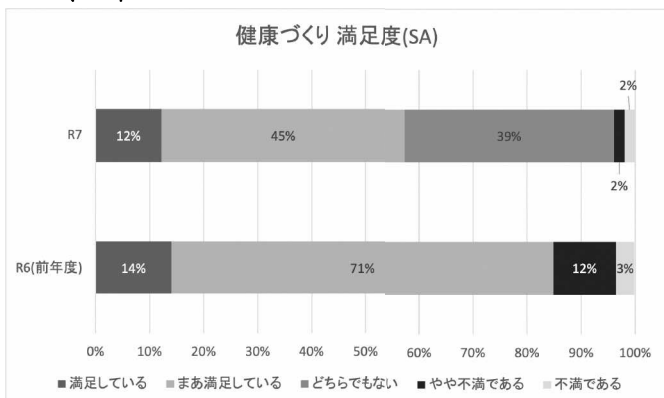
【12(15) 下水道】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」の合計はR7で69%(29%+40%)、R6の83%(34%+49%)に比べると減少しており、満足度が低下していることがわかる。R7では新たに23%が「どちらでもない」を選択しており、R6で「まあ満足している」や「やや不満である」と回答していた一部が移行した可能性がある。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」の合計はR7で89%(66%+23%)、R6では98%(68%+30%)とやや低下している。R7で「どちらでもない」が10%を占めている点から、R6の「まあ重要である」と回答していた一部が移行したことが推察される。

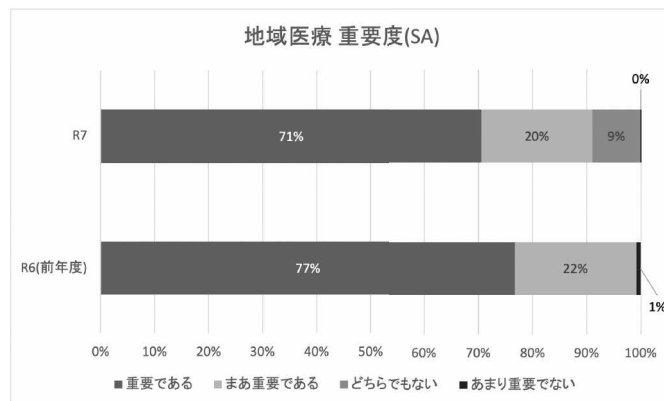
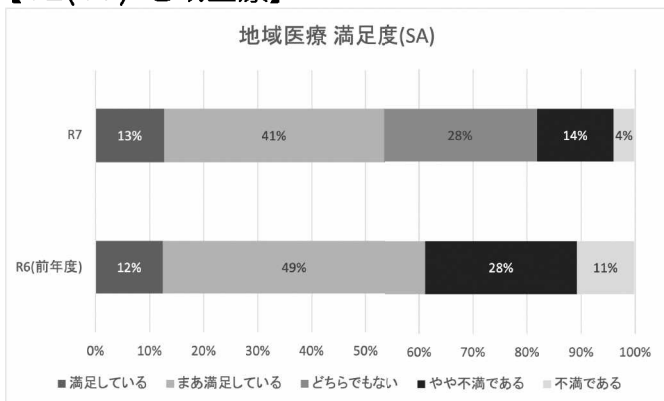
【12(16) 健康づくり】



満足度:「まあ満足している」が45%とR6の71%から大きく減少しており、満足層の割合が顕著に低下した。全体として「満足している」と「まあ満足している」を合わせた割合も57%と、R6の85%から大きく落ち込んでいる。一方で、「どちらでもない」が39%を占めており、R7で新たに追加されたこの選択肢の影響が強く、多くの回答が流れたことが示唆される。また、「やや不満である」や「不満である」と回答した割合もR6から減少しており、不満層の一部も「どちらでもない」へと移行したと考えられる。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」を合わせて77%が肯定的に評価しており、多くの住民がその重要性を認識している。ただし、R6と比較すると「重要である」が5ポイント減少しており、「どちらでもない」が21%に上昇していることから、必ずしも全員が健康づくりの施策に強い関心を持っているわけではないことがうかがえる。施策の方向性や実感の薄さが、評価の分散に影響している可能性がある。

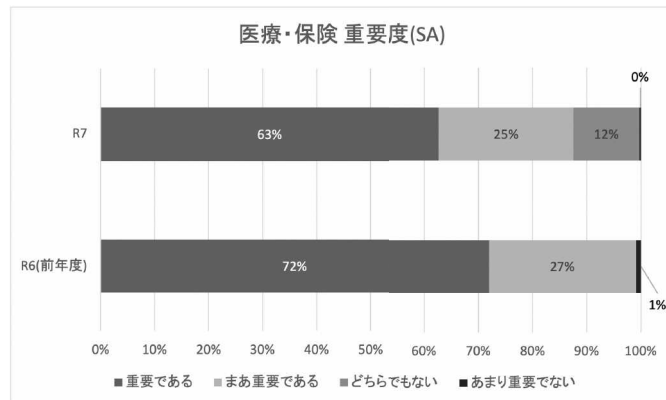
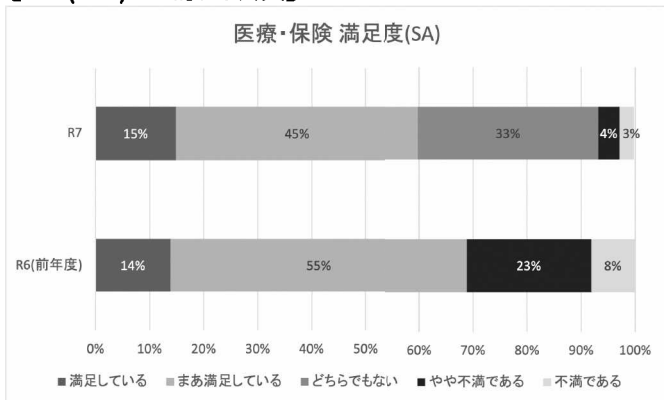
【12(17) 地域医療】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」を合わせた回答者割合は54%と過半数を占めている。しかし、R6と比較すると「まあ満足している」が8ポイント減少し、「やや不満である」が14%と若干増加している。また、R7で新たに選択肢として追加された「どちらでもない」が28%を占めており、評価を明確に定めない層の存在が一定数見られる。

重要度:R7においても引き続き高く、「重要である」が71%、「まあ重要である」が20%で、合計91%と、非常に多くの回答者がその重要性を認識している。R6と比較すると「重要である」はやや減少したものの、依然として高水準にある。R7で新たに加わった「どちらでもない」も9%にとどまっており、地域医療が地域住民にとって依然として不可欠な施策分野であることが読み取れる。

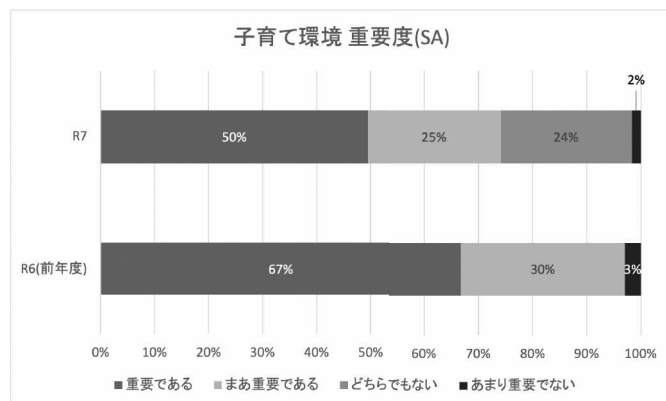
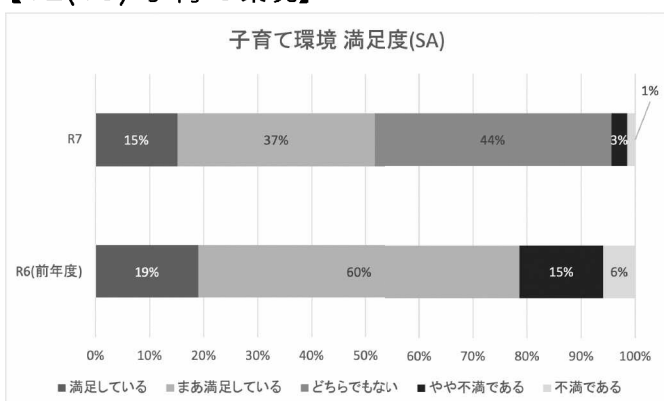
【12(18) 医療・保険】



満足度: R7において、「満足している」が15%、「まあ満足している」が45%、両者を合わせた満足層は60%と、過半数をやや上回る結果となった。一方で、R6では「まあ満足している」が55%とR7よりも10ポイント高く、R7ではこの層の一部が「どちらでもない」や「やや不満である」へと分散したと見られる。また、「不満である」の割合は3%にとどまり、全体として大きな不満が広がっているわけではない。

重要度: R7において、「重要である」が63%、「まあ重要である」が25%となっており、合計88%の回答者がその重要性を認識している。一方、R6では「重要である」が72%とR7よりも9ポイント高く、R7では一部が「まあ重要である」や「どちらでもない」へと移行したことがうかがえる。「あまり重要でない」との回答はR7・R6ともに1%以下であり、医療・保険が住民にとって依然として高い関心を集める領域であることに変わりはない。

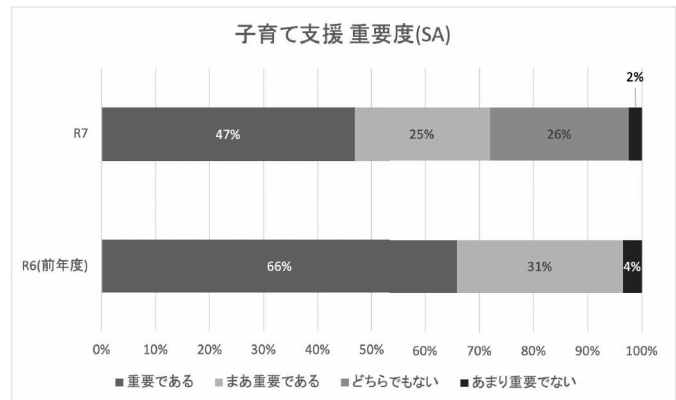
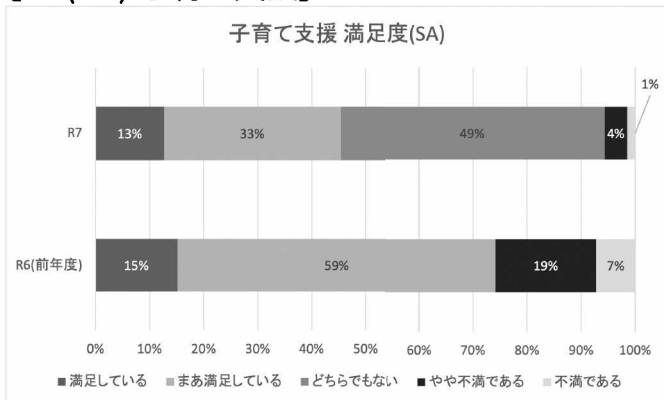
【12(19) 子育て環境】



満足度: R7において「満足している」が15%、「まあ満足している」が37%で、両者を合わせた満足層は52%となり、R6の79%から大きく減少した。特に「まあ満足している」の割合が23ポイント減少しており、代わりに「どちらでもない」が44%と高い割合を占めている点が特徴的である。また、「やや不満である」や「不満である」の割合はそれぞれ3%、1%と抑えられており、明確な不満は少ないものの、中立寄りの評価が多い傾向が見て取れる。

重要度: R7では、「重要である」が50%、「まあ重要である」が25%と、両者を合わせて75%の回答者が重要と捉えている。しかし、R6における「重要である」が67%、「まあ重要である」が30%であったのに対し、それぞれ17ポイント、5ポイントの減少が見られる。一方で「どちらでもない」が24%と新たに存在感を示しており、一部の回答者が重要性に対して慎重または保留的な姿勢に転じた可能性が示唆される。

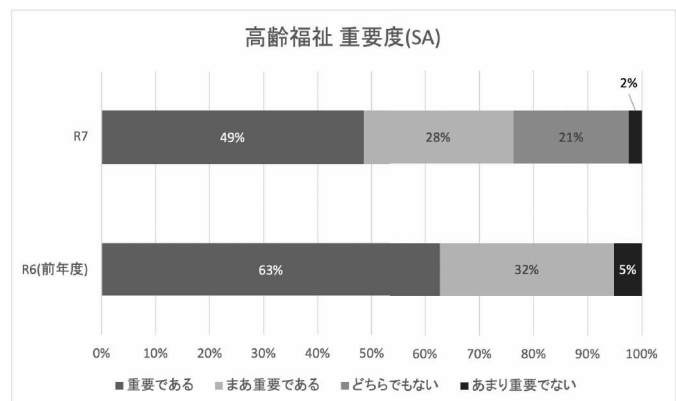
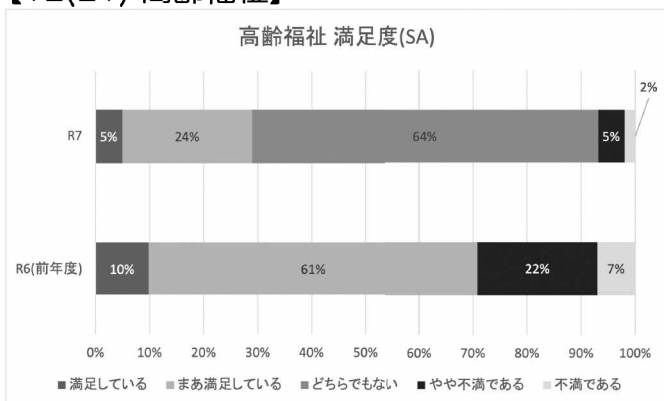
【12(20) 子育て支援】



満足度:「まあ満足している」との回答が、前年度の59%からR7では33%へと26ポイントの大幅減少となり、代わりに「どちらでもない」が49%と存在感を出している。一方で「満足している」はほぼ横ばいにとどまっている。「やや不満」「不満である」の割合は合わせて8%から5%とわずかに減少しており、不満層の増加は見られない。

重要度:「重要である」は66%から47%へと大きく減少し、「まあ重要である」もやや減少傾向。子育て支援の必要性を強く意識する層が減少し、全体的に関心が薄まってきている傾向が見られる。人口構成や世帯属性の変化、あるいは他の政策課題への関心の高まりも背景にある可能性がある。

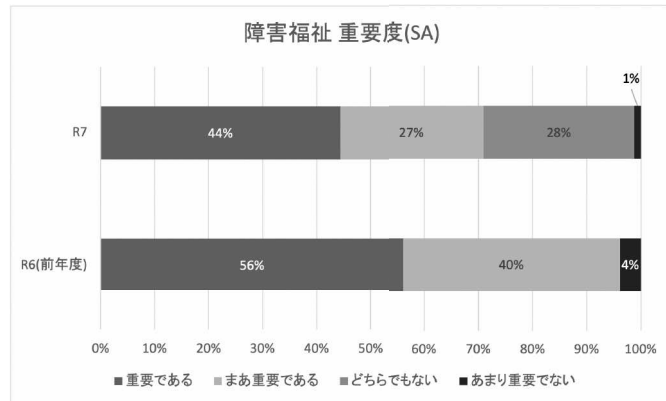
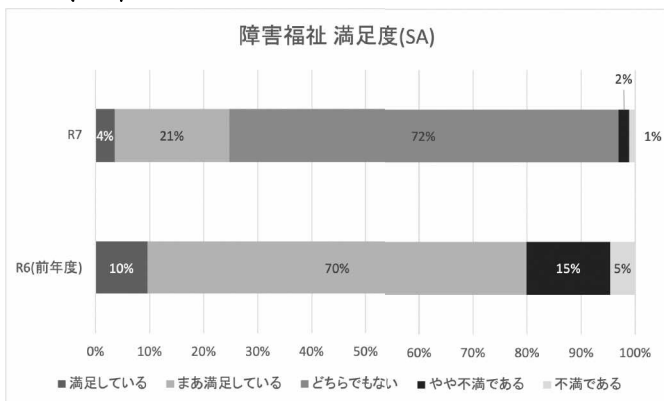
【12(21) 高齢福祉】



満足度:前年に「まあ満足している」と答えた人が61%であったのに対し、R7ではわずか24%にとどまっている。「満足している」も10%から5%と減少しており、満足層が顕著に縮小しています。一方、「どちらでもない」が64%と回答者の半数以上を占めており、利用経験や実感を伴わない回答の増加を示唆しています。

重要度:「重要である」と答えた人はR6で63%だったのに対し、R7では49%に減少。高齢者福祉の重要度への関心が相対的に低下している傾向が見受けられます。少子高齢化の進展にもかかわらず、意識のギャップが生まれている可能性があります。

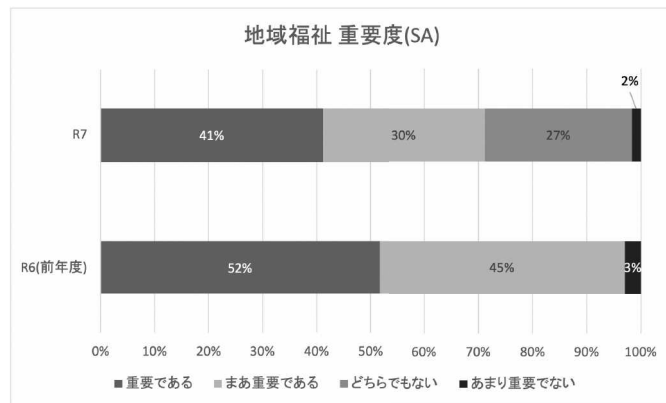
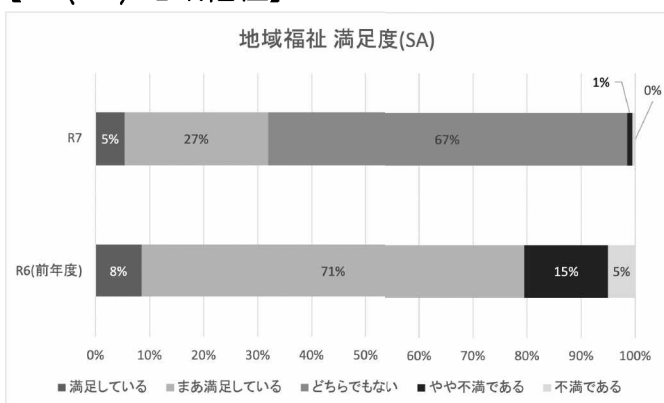
【12(22) 障害福祉】



満足度:「まあ満足している」が70%から21%へと激減し、代わって「どちらでもない」が72%となっており、障害福祉の満足度に関して中立的な立場の回答者が大半を占めることがわかる。評価の根拠となる実体験や情報が乏しい層が大多数であることを考えると、それほど注視する必要がない回答傾向の変化であるとも言える。

重要度:「重要である」は前年度56%から44%に減少し、「まあ重要である」も40%から27%に減少している。「どちらでもない」の回答に多くが流れたものと推察されるが、優先順位の再配置や、政策テーマの多様化によって障害者福祉が相対的に目立たなくなっているとも解釈できる。

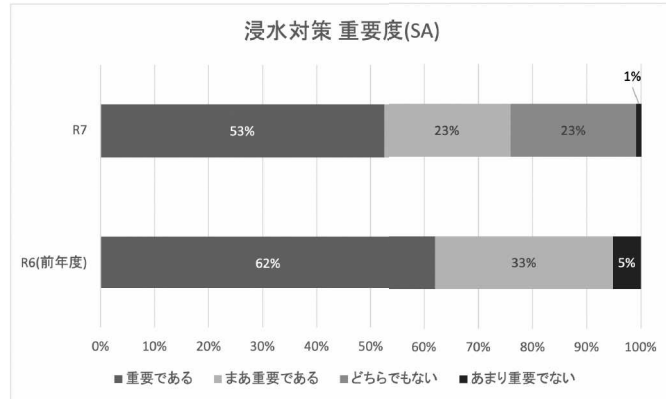
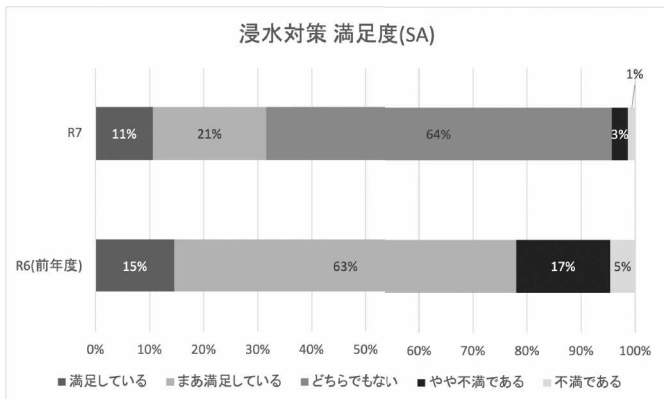
【12(23) 地域福祉】



満足度:「まあ満足している」が前年度71%から27%に大幅減少し、「どちらでもない」67%と回答者の大多数を占める。評価を留保する層が支配的である。

重要度:「重要である」は前年度52%から41%へとやや減少し、「まあ重要である」も前年度45%から30%へ減少しており、代わりに「どちらでもない」が27%を占める結果となった。地域福祉に対する関心がやや後退傾向にあるものの、一定の基盤は維持している様子も見受けられる。

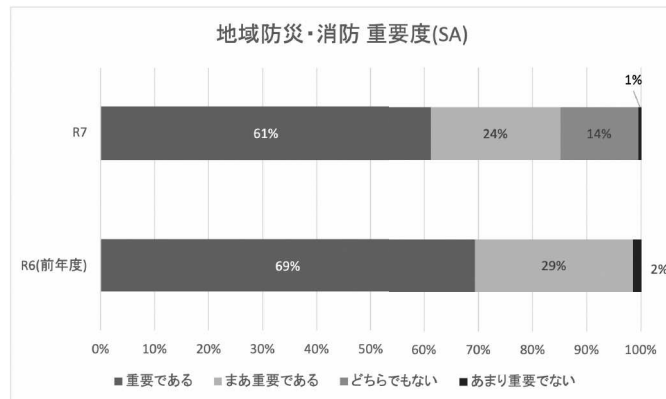
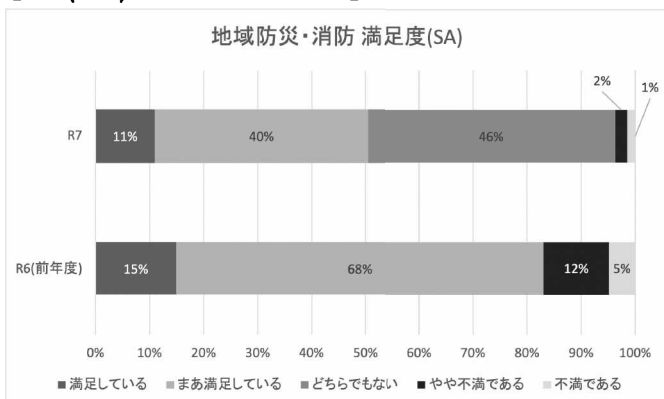
【12(24) 浸水対策】



満足度:「まあ満足している」が63%から21%へと激減し、「どちらでもない」が64%と回答者の半数以上を占めることがわかる。満足度について判断留保の傾向が顕著であり、対策の実感や成果が住民に伝わっていない可能性があります。

重要度:「重要である」は前年度62%から53%とやや低下。前年度「重要である」や「まあ重要である」と回答した住民の一部が中立的な「どちらでもない」に流れたものと思われる。重要度への関心を高めるためには、近年の災害頻度や気象条件との関連も踏まえた啓発が必要である。

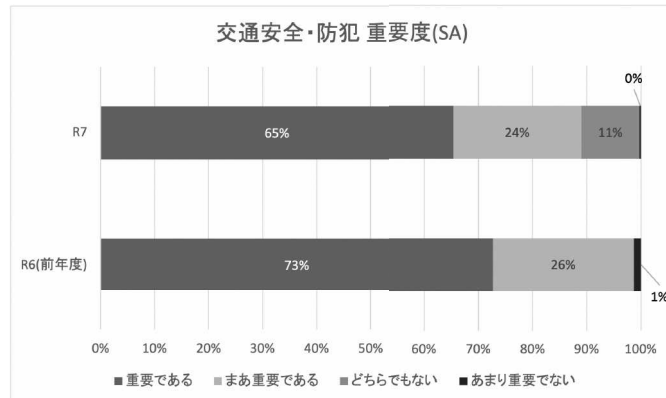
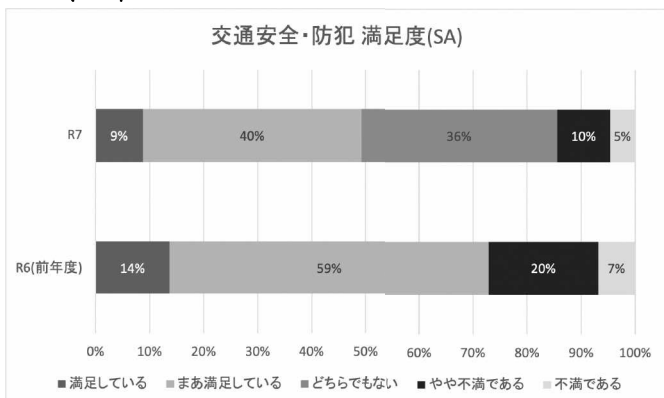
【12(25) 地域防災・消防】



満足度:前年度の「まあ満足している」が68%だったのに対し、R7では40%と28ポイント減少。「どちらでもない」が46%と存在感のある結果となっている。「満足している」についても15%→11%とやや減少しており、防災活動や消防体制の見えづらさが背景にある可能性が考えられる。

重要度:「重要である」は前年69%からR7で61%と若干の低下にとどまっており、依然として最も高い重要度認識を維持している項目である。

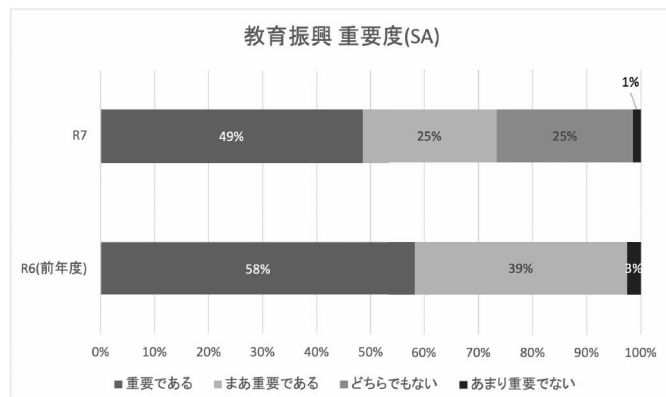
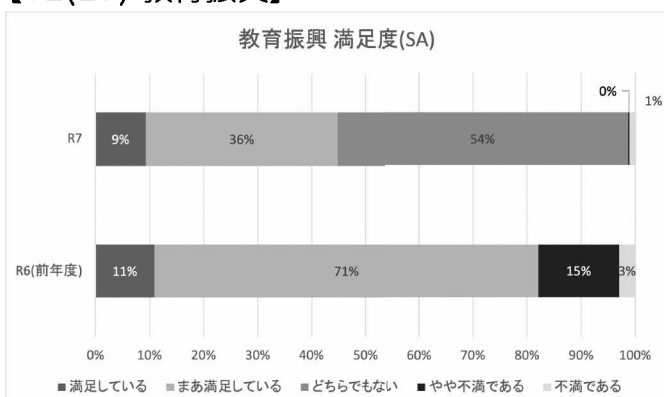
【12(26) 交通安全・防犯】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」を合わせた割合はR6では73%であったのに対し、R7では49%にまで減少している。R7で新たに選択肢として追加された「どちらでもない」によって、特に「まあ満足している」がR6の59%からR7では40%へと大きく減少しており、前年度「まあ満足している」と回答していた層の一部が中立的な立場であった可能性が考えられる。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」を合わせた割合は、R6では99%(73%+26%)と非常に高かったものの、「どちらでもない」の導入によって、R7では89%(65%+24%)に減少している。ただし、依然として9割近くが重要性を認識している点からも、交通安全・防犯は住民の関心が高い分野であることに変わりはない。

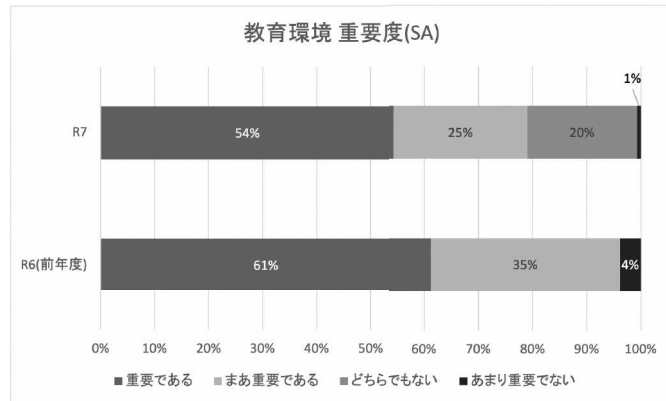
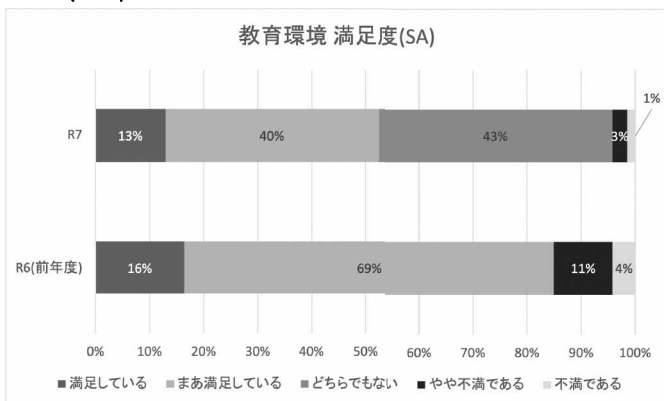
【12(27) 教育振興】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」の合計は、R6では82%(11%+71%)と高い水準にありましたが、「どちらでもない」の導入によって、R7では45%(9%+36%)と大幅に減少している。「どちらでもない」とする回答が54%と多数を占めており、満足・不満のいずれにも振れない中立的な意見が多数派であることは明らかである。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」を合わせた割合は、R6の97%(58%+39%)からR7では74%(49%+25%)へと23ポイント減少している。R7では「どちらでもない」が25%を占め、教育振興の優先度や必要性に対して判断を留保する層が一定数いることが読み取れる。このような傾向は、教育施策に対する期待や実感とのギャップ、または中長期的視点からの評価の難しさを反映している可能性がある。

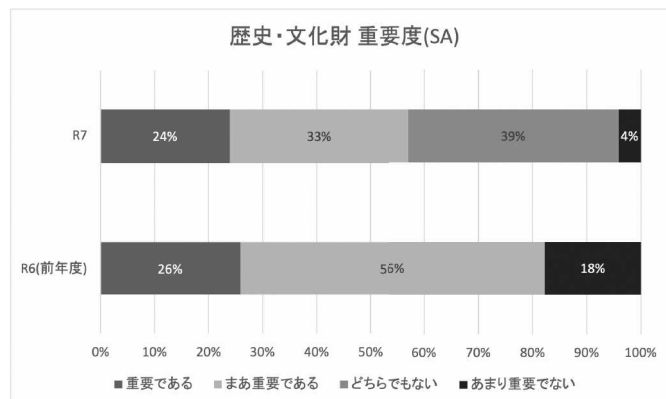
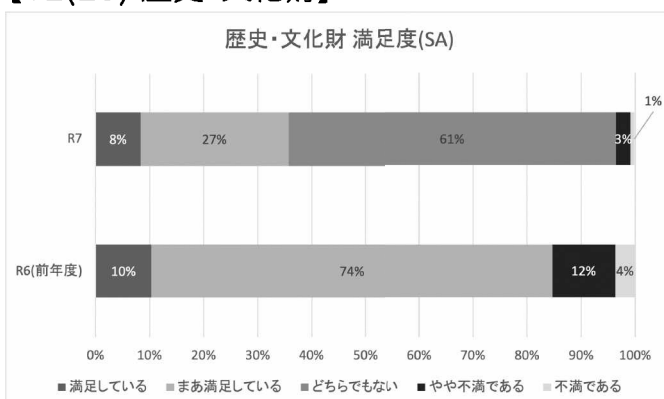
【12(28) 教育環境】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」の合計はR7で53%となり、R6の85%から大きく低下した。特に「まあ満足している」の割合が69%から43%へと減少しており、最も回答割合の大きい「どちらでもない」へ流れたものと思われる。一方、「やや不満である」「不満である」の合計はR6の15%からR7では4%に減少しており、不満層についても「どちらでもない」へと移行した可能性がある。満足と不満の中間層が拡大したことから、教育環境に対する意見がやや分散しつつある状況が読み取れる。

重要度:「重要である」「まあ重要である」と回答した割合の合計はR7で79%となり、R6の96%から低下した。特に「まあ重要である」が35%から25%に減少し、代わりに「どちらでもない」の割合が20%を占める結果となっている。

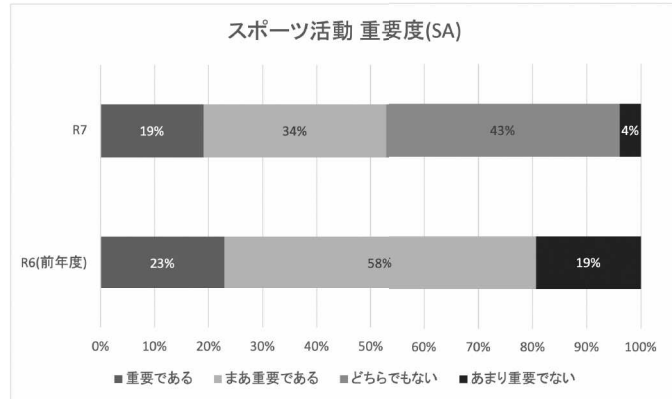
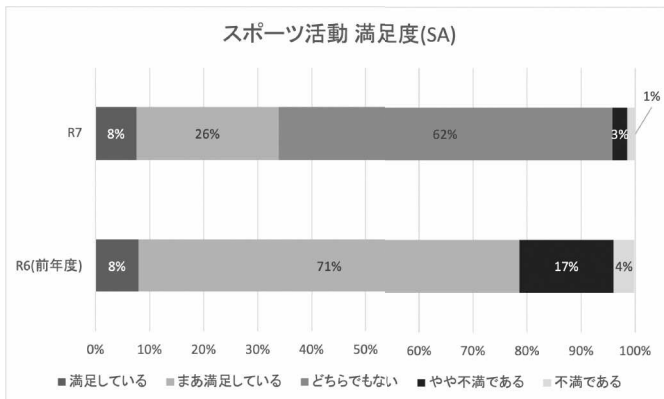
【12(29) 歴史・文化財】



満足度:「満足している」「まあ満足している」の合計はR7で35%と、R6の84%から大きく低下している。特に「まあ満足している」が74%から27%へと大幅に減少し、代わって「どちらでもない」が61%を占めることから、回答者の過半数が満足に至っていないことが窺える。不満層が極めて少ないことを踏まえると、歴史・文化財については、中立的な立場の回答が支配的であると考えられる。

重要度:「重要である」「まあ重要である」と回答した合計はR7で57%となり、R6の82%から大きく減少し、代わりに「どちらでもない」が39%と高水準を占めている。

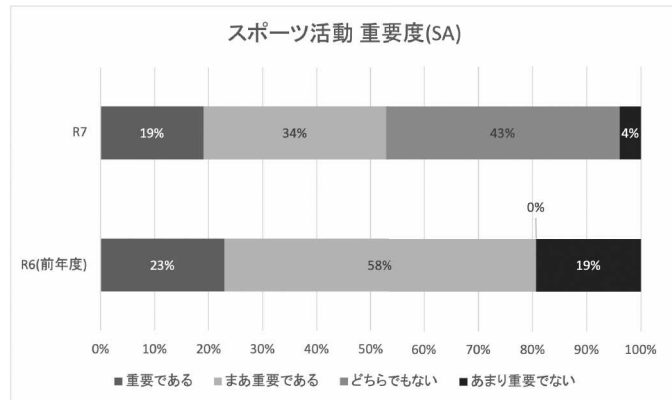
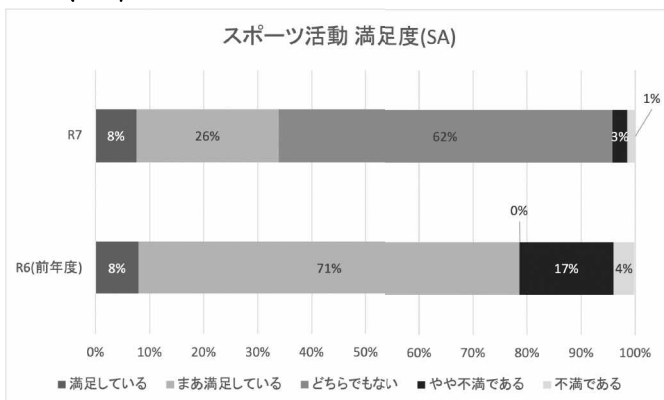
【12(30) 文化活動】



満足度:文化活動に対する満足度は、R7で「満足している」「まあ満足している」とする回答が37%にとどまり、前年度85%と比べて大幅に減少している。減少の理由は、「どちらでもない」の追加によるものと思われるが、その割合が59%であることから、回答者の多くが満足を感じていないことには注意が必要である。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」の回答の合計は55%であり、前年度の84%から減少している。R7で追加された「どちらでもない」の回答が41%を占めることから、前年度、「まあ重要である」と回答した住民の一部が中立的な回答へと移行した可能性が高い。

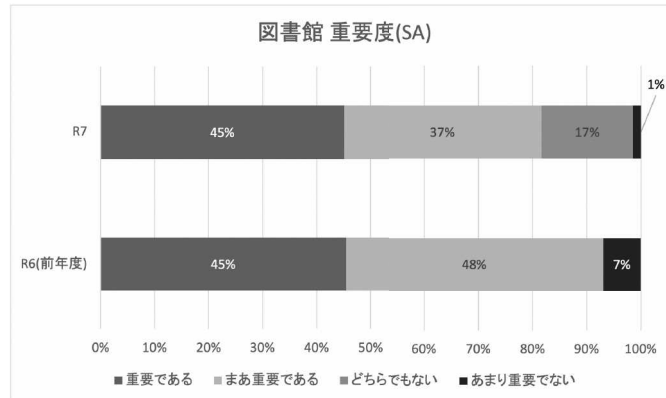
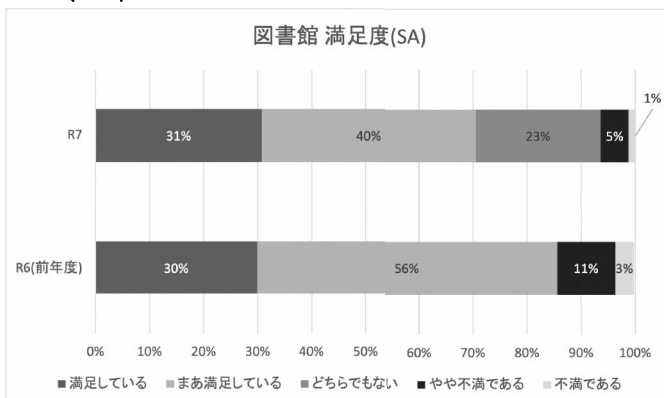
【12(31) スポーツ活動】



満足度:R7で「満足している」と「まあ満足している」の回答が合計34%にとどまり、「どちらでもない」の導入によって、前年度の79%から大きく減少している。「どちらでもない」が回答者全体の62%を占めており、中立寄りの評価をする住民が多いことがわかる。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」の回答の合計が53%となり、「どちらでもない」の導入によって、前年度の81%から減少している。特に「あまり重要でない」とする回答は19%から4%に減っているものの、スポーツ活動の重要度に関して「どちらでもない」が43%を占めている点には注視する必要がある。

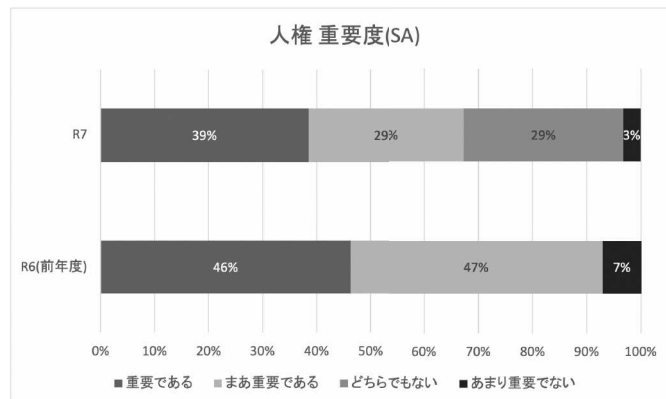
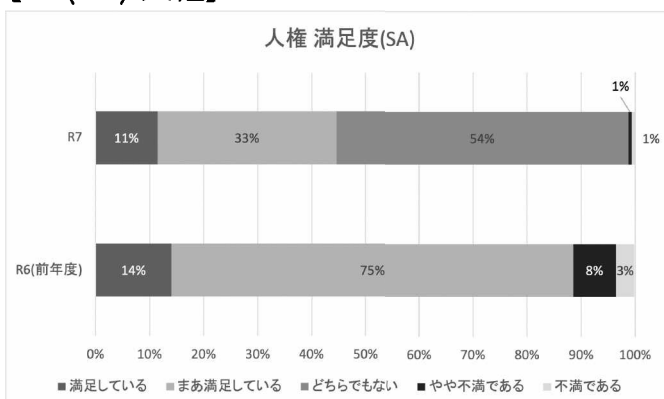
【12(32) 図書館】



満足度:「満足している」が31%で、前年度と同程度。「まあ満足している」も前年度から減少しているものの40%で、全体として好意的な評価が維持されている。

重要度:「重要である」の回答割合が45%で前年度と同水準にとどまっている。「まあ重要である」や「あまり重要でない」の回答者の一部が「どちらでもない」へと移行したものと推察されるが、利用価値の認識は一定程度維持されていることがわかる。

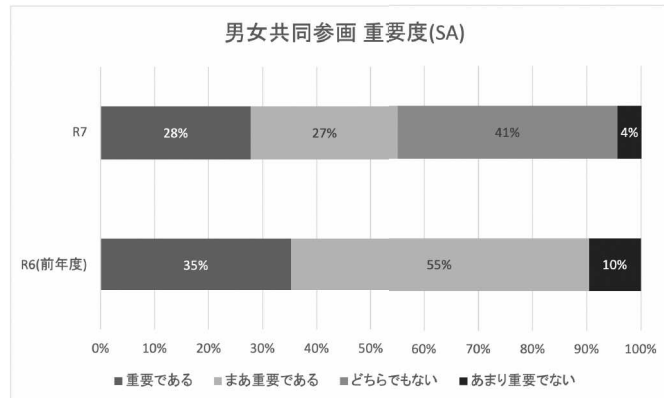
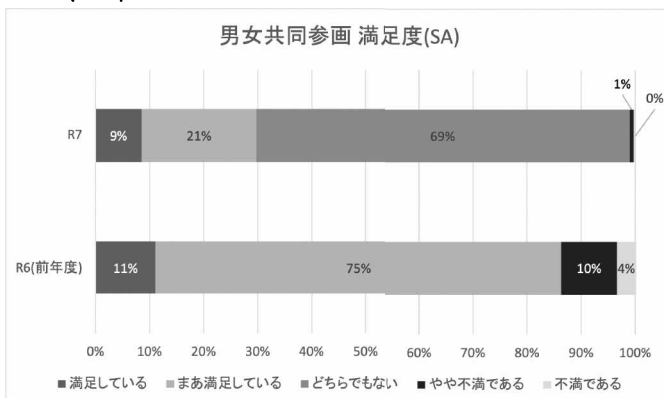
【12(33) 人権】



満足度:「まあ満足している」は前年度75%から33%へと大きく減少しているが、回答選択肢の変更による見かけ上の減少と捉えるべき。「どちらでもない」が54%と過半数を占めていることから、従来の選択肢では判断を下せなかった層が可視化されていることがわかる。「やや不満である」と「不満である」の合計も11%から2%へと減少しており、不満層が「どちらでもない」へ移行した可能性が示唆される。

重要度:「どちらでもない」が29%を占め、これに伴い「重要である」は46%から39%へ、「まあ重要である」は47%から29%へとそれぞれ減少している。「あまり重要でない」は7%から3%に減少している。これらの変化も、「どちらでもない」が新たに選択肢として設けられたことで、以前はやや積極的・消極的な評価に振れていた回答が、中立に収束した結果と見られる。

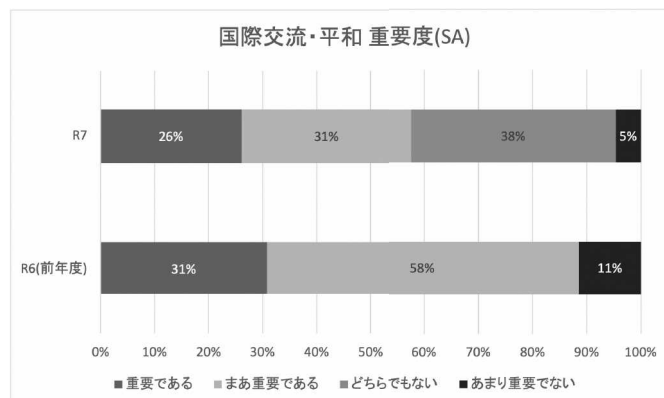
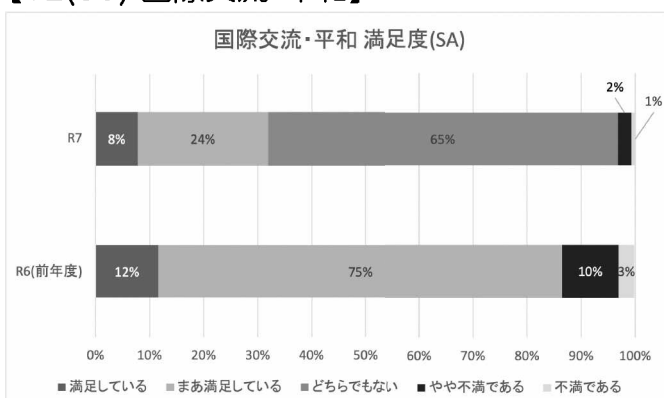
【12(34) 男女共同参画】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」と回答した割合の合計はR6では86%(11%+75%)であったのに対し、R7では30%(9%+21%)と大幅に減少している。一見すると満足度が大きく落ち込んだように見えるが、R7では新たに「どちらでもない」という中立的な選択肢が設けられたことで、これまでやや肯定的に回答していた層がその中立選択肢に移行した可能性がある。実際、R7では「どちらでもない」が69%を占めており、満足・不満の二極評価に当てはまらない意見が顕在化したと言える。また、「やや不満である」と「不満である」の合計割合は、R6の14%(10%+4%)からR7ではわずか1%(1%+0%)に減少しており、不満層が明確に縮小している。これは、評価が悪化したのではなく、むしろ強い不満が減り、全体としては“可もなく不可もない”とする層が増加したという構図と考えられる。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」と回答した割合は、R6では合計90%(35%+55%)であったが、R7では55%(28%+27%)へと減少。この背景にも、「どちらでもない」の新設(41%)が大きく影響しているものと考えられる。注目すべきは、「あまり重要でない」と回答した割合が10%(R6)から4%(R7)へと減少している点で、重要性を明確に否定する層が減り、中立的な立場を選ぶ人々が浮かび上がったと捉えることができる。

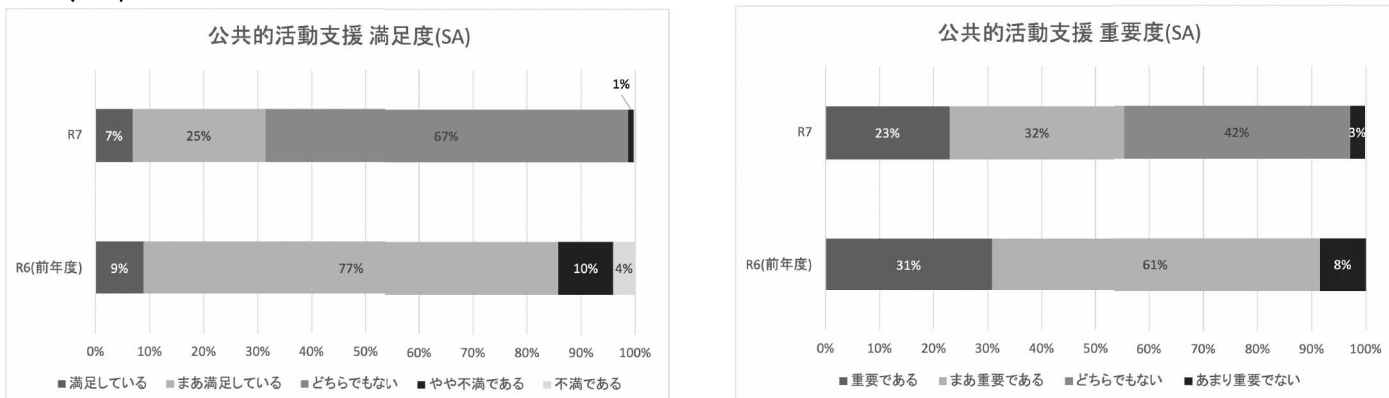
【12(35) 国際交流・平和】



満足度:「満足している」と「まあ満足している」の合計割合は、R6では87%(12%+75%)であったが、R7では32%(8%+24%)へと大きく減少している。一見すると満足度が大幅に減少したようにも見えるが、R7では「どちらでもない」という選択肢が追加されており、これに65%の回答が集中したものとされる。これは、従来「まあ満足している」と答えていたが、実際には評価を保留していた層が中立的な立場を選択するようになった結果と考えられる。さらに、「やや不満である」「不満である」と回答した割合は、R6では13%(10%+3%)だったのに対し、R7では3%(2%+1%)と大幅に減少しており、国際交流・平和に対する否定的な評価が減ったという側面も読み取れる。

重要度:「重要である」と「まあ重要である」の合計割合は、R6で89%(31%+58%)と非常に高い水準でしたが、R7では57%(26%+31%)と大きく減少している。この変化も、R7で「どちらでもない」が38%に達していることが影響していると考えられる。これまで「まあ重要である」と回答していた層の一部が、“判断保留”の立場を選んだと見られる。一方、「あまり重要でない」との否定的な回答は、R6の11%からR7では5%に減少しており、重要性を否定する層は縮小。全体としては、国際交流・平和を明確に「重要」と捉える層が減る一方で、“どちらとも言えない”とする態度が浮上してきた構図である。

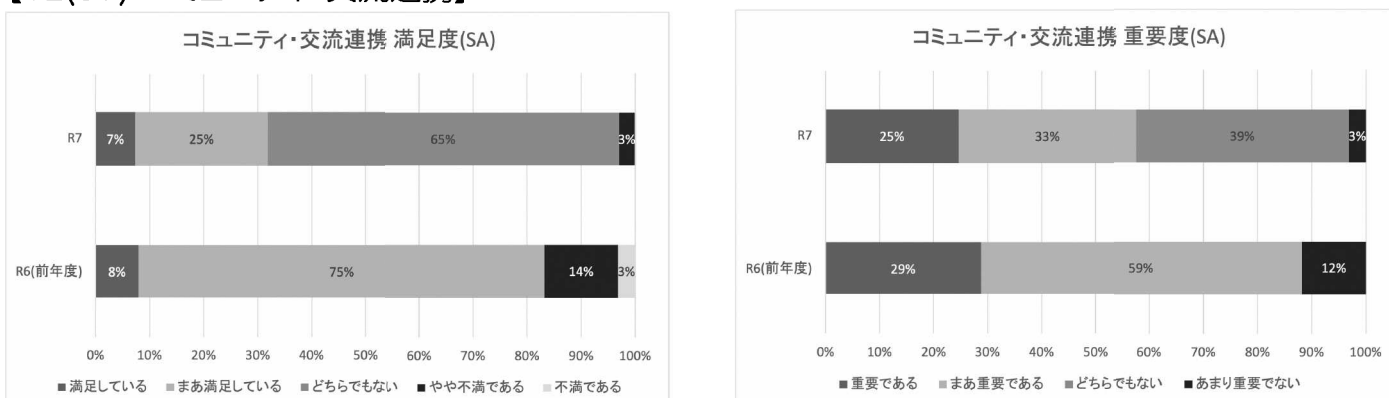
【12(36) 公共的活動支援】



満足度: 前年度では「満足している」と「まあ満足している」の合計割合が計86%(9%+77%)と高く、一定の支持が確認された。これに対して、R7では「満足している」が7%、「まあ満足している」が25%と大幅に減少し、合計32%にとどまっている。この急減の背景には、R7で新設された「どちらでもない」という選択肢に67%が回答しているという事情があり、満足と不満のいずれにも当てはまらない中間層の声が明確化された結果と考えられる。特筆すべきは、「やや不満である」と「不満である」の合計がR6の14%(10%+4%)からR7ではわずか1%(1%+0%)にまで減少している点。つまり、全体として不満層は縮小しており、明確な否定的評価は減っていると言える。

重要度: 「重要である」と「まあ重要である」と答えた合計割合は、前年度において、92%(31%+61%)と非常に高く、市民からの関心が強い領域であることが示されていた。しかし、R7ではそれが55%(23%+32%)へと大きく減少しています。この背景にも、「どちらでもない」が42%に増えていることが影響している。「重要ではない」とする否定的な回答も、R6では8%だったのに対し、R7では3%と減少しているため、「軽視されている」わけではなく、「判断を保留する」あるいは「実感を持ちにくい」層の存在が浮かび上がっていると言える。

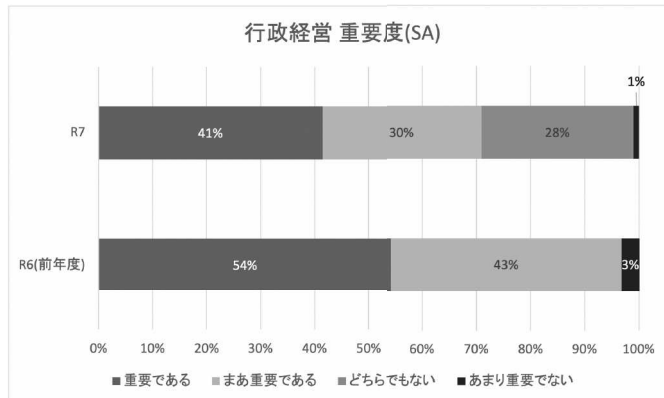
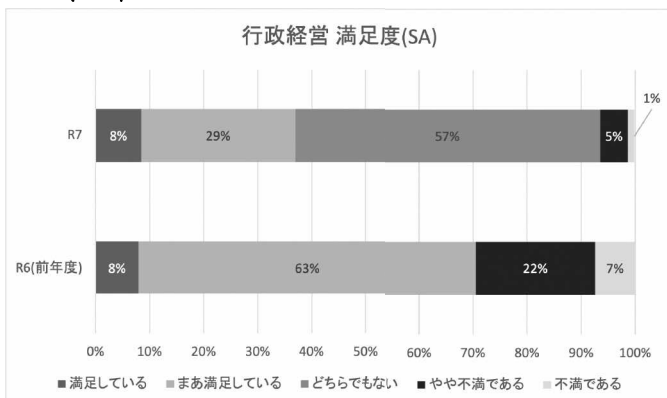
【12(37) コミュニティ・交流連携】



満足度: 前年度においては、「満足している」と「まあ満足している」の肯定的回答の合計は83%(8%+75%)を占めており、比較的高い満足度が確認された。一方、R7年度ではこの値が32%(7%+25%)と大きく低下しているが、この変化の要因として、R7年度に「どちらでもない」という中立的選択肢が追加され、これに65%が回答した点が挙げられる。注目すべきは、「やや不満である」「不満である」との否定的回答が、R6年度の17%(14%+3%)からR7年度ではわずか4%(3%+1%)へと減少していることである。このことから、R7年度における満足度の低下は、不満の増加によるものではなく、「判断保留」や「現状に特段の可否を感じていない」とする層の顕在化であると考えられる。

重要度: 重要度に関しても満足度と同様の傾向が見られる。R6年度においては、「重要である」と「まあ重要である」の合計が88%(29%+59%)に達しており、関心の高さが窺える結果であった。これに対して、R7年度では、「重要である」25%、「まあ重要である」33%と合計58%に留まり、全体としての認識の強さは後退している。一方で、「どちらでもない」が39%に達しており、中立的な姿勢をとる層が一定数存在することが明確になった。また、「あまり重要でない」とする否定的回答は、R6年度の12%からR7年度では3%へと減少しており、全体としては重要性を否定する声は減少している。

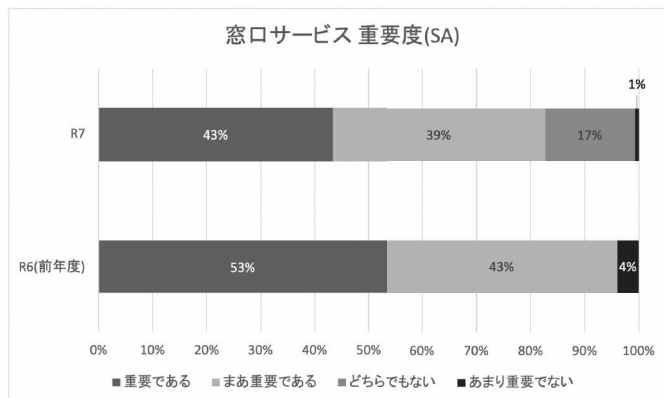
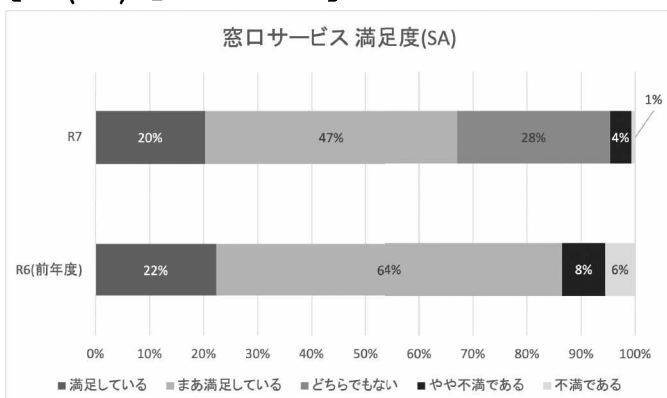
【12(38) 行政経営】



満足度: 前年度「満足している」と「まあ満足している」の合計が71%(8%+63%)であったのに対し、R7では37%(8%+29%)と大幅に減少している。一方で、「やや不満である」「不満である」の割合はR6年度の29%(22%+7%)からR7年度では6%(5%+1%)へと大きく減少している。この変化の背景には、R7年度より新設された「どちらでもない」という中立選択肢の存在があると考えられる。同選択肢には57%が回答しており、過年度まで満足あるいは不満と判断されていた回答の一部が、態度保留や判断困難といった形で表面化した可能性が高い。したがって、満足度の数値上の低下は、市民の不満増加を示すものではなく、行政経営の現状に対して「評価の判断材料が乏しい」あるいは「積極的な関心が持たれていない」状態の可視化であると推察される。

重要度: 行政経営の重要度に関しても、満足度と類似した傾向が見られる。R6年度では、「重要である」と「まあ重要である」の合計が97%(54%+43%)に達しており、高い認識が示されていた。一方、R7年度では同値が71%(41%+30%)と約25ポイントの減少が見られる。この変化もまた、「どちらでもない」が28%を占めることで説明される。市民の中には、行政経営の具体的な施策やその成果について、情報が十分に行き渡っていないことにより、重要性を実感しにくい層が一定数存在していると考えられる。

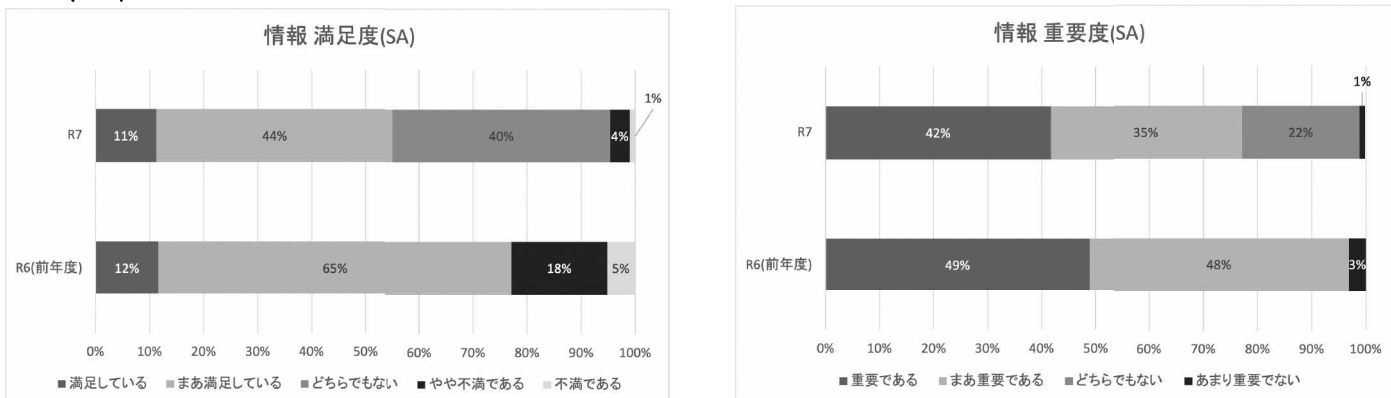
【12(39) 窓口サービス】



満足度: 前年度の窓口サービスへの満足度は、「満足している」と「まあ満足している」の合計が86%(22%+64%)と極めて高く評価されていた。これに対してR7年度では同値が67%(20%+47%)となり、約19ポイントの減少が見られる。一方、「どちらでもない」はR7では28%と存在感を示しており、従来は肯定的に評価されていた層の一部が中立的な立場へと移行した可能性がある。加えて、「やや不満である」「不満である」といった否定的な評価もR6年度の14%(8%+6%)からR7では5%(4%+1%)へと改善されており、満足度の低下は単純な不満の増加を意味していない。総じて、R7においては窓口サービスの質そのものが著しく低下したわけではなく、むしろ「評価保留」あるいは「改善の余地あり」とする認識が広がったものと解釈される。

重要度: 重要度に関しても、満足度と類似した傾向が認められる。R6年度では「重要である」と「まあ重要である」の合計が96%(53%+43%)に達しており、窓口サービスは住民生活における不可欠な機能として捉えられていた。R7年度ではこれが82%(43%+39%)となり、14ポイントの減少が生じている。また、「どちらでもない」はR7では17%を占めており、満足度と同様に「判断を留保する層」が顕著に増加している。一方で、「あまり重要でない」とする割合はR6年度の4%から1%へと低下しており、窓口サービスの重要性そのものが否定されているわけではない。

【12(40) 情報】

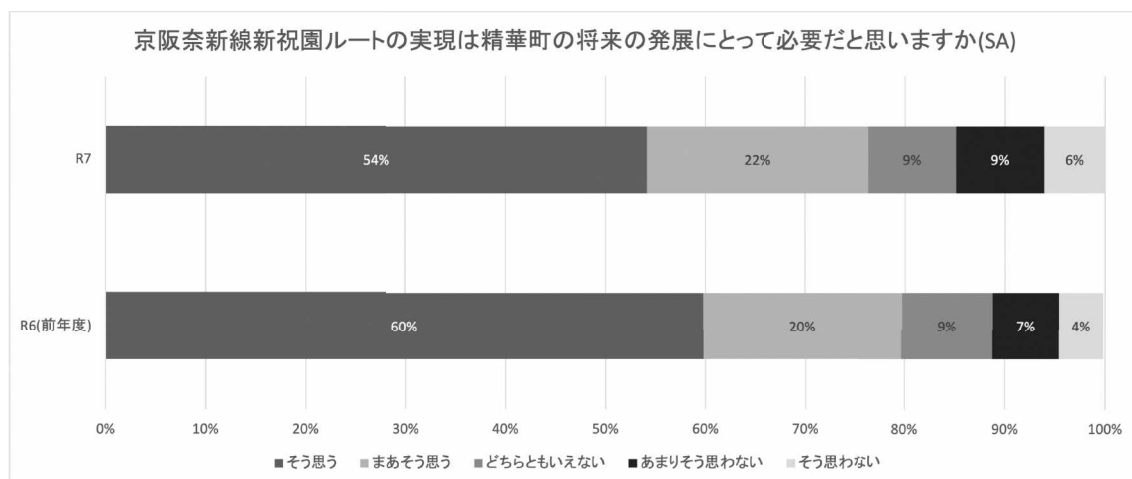


満足度: R6年度においては、「満足している」と「まあ満足している」がそれぞれ12%および65%であり、合計77%の住民が肯定的な評価を示していた。しかし、R7年度ではこれが55%(11%+44%)に減少しており、一見すると、満足度が全体的に低下しているように思われる。これは、選択肢「どちらでもない」がR7年度で追加されたことによるものであると推察され、その割合は40%に達している。情報提供に対して判断を保留する層が一定数いることが明らかであるのに対して、「やや不満である」と「不満である」の合計値はR6年度の23%(18%+5%)からR7年度には5%(4%+1%)へと大幅に減少している。このような傾向は、「明確な不満」は減少した一方で、「満足」とまでは言えない中立的な意見が可視化されたことを意味し、情報提供の手段やタイミングなどに対する改善余地が指摘されている可能性がある。

重要度: 前年度からR7にかけてやや低下が見られる。R6年度では「重要である」および「まあ重要である」の合計が97%(49%+48%)に達していたのに対し、R7年度では77%(42%+35%)となっている。R7で追加された「どちらでもない」と回答した住民の割合は22%であり、情報の重要性を中立的に見る層が一定程度存在していることがわかる。「あまり重要でない」とする割合は、R6年度が3%、R7年度が1%であり、大きな差異はない。したがって、住民の大多数は依然として情報提供を重要視しているものの、その絶対的な価値は相対的に見直されつつあるとも言える。

質問項目「**13. 京阪奈新線新祝園ルートの実現は精華町の将来の発展にとって必要だと思いますか。**」についての集計結果を示す。

【13】

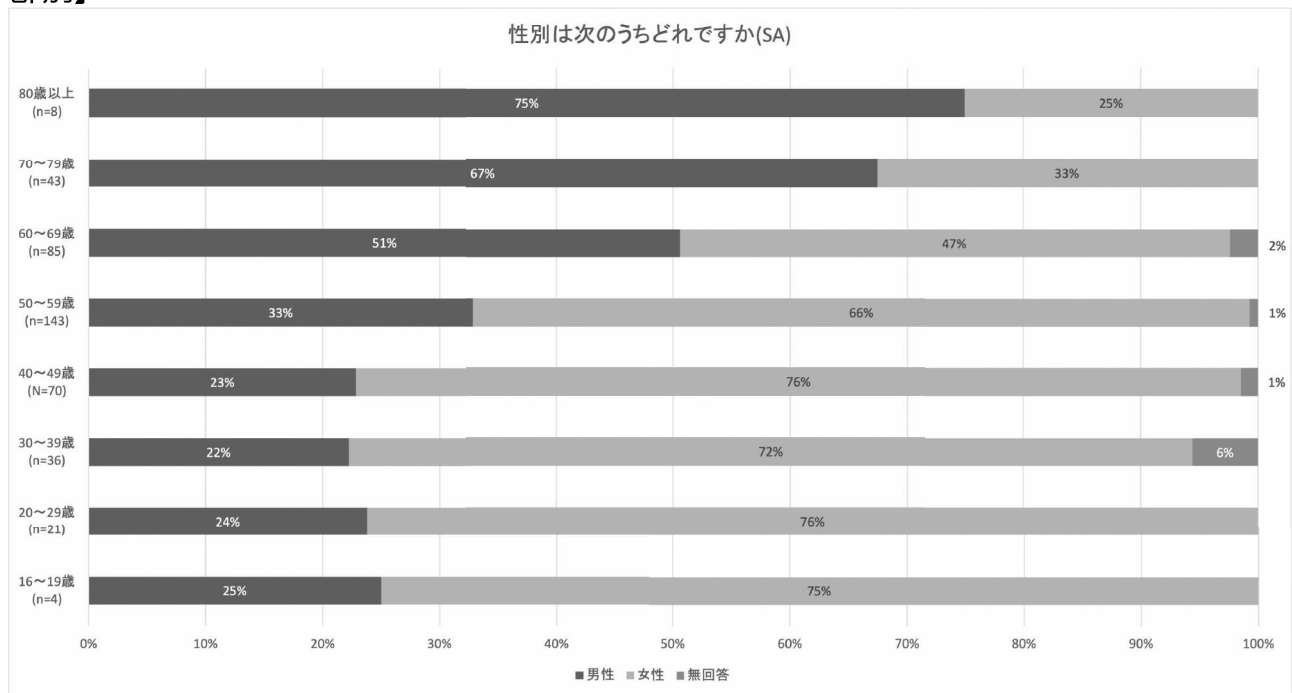


R7において「そう思う」と「まあそう思う」の合計割合は76%であり、全体としては、肯定的な意見が依然として多数派を占めるものの、前年度と比較してやや減少している。特に「そう思う」の割合が6ポイント低下しており、住民の間におけるプロジェクトの必要性に対する熱量が若干冷静化している可能性がある。一方で、否定的な意見の増加も見られ、全体としては評価がやや分散しつつある状況である。今後は、具体的な整備効果や町の将来ビジョンとの連動を明確にする情報発信が求められる。

年代別・居住地域別の精華町について

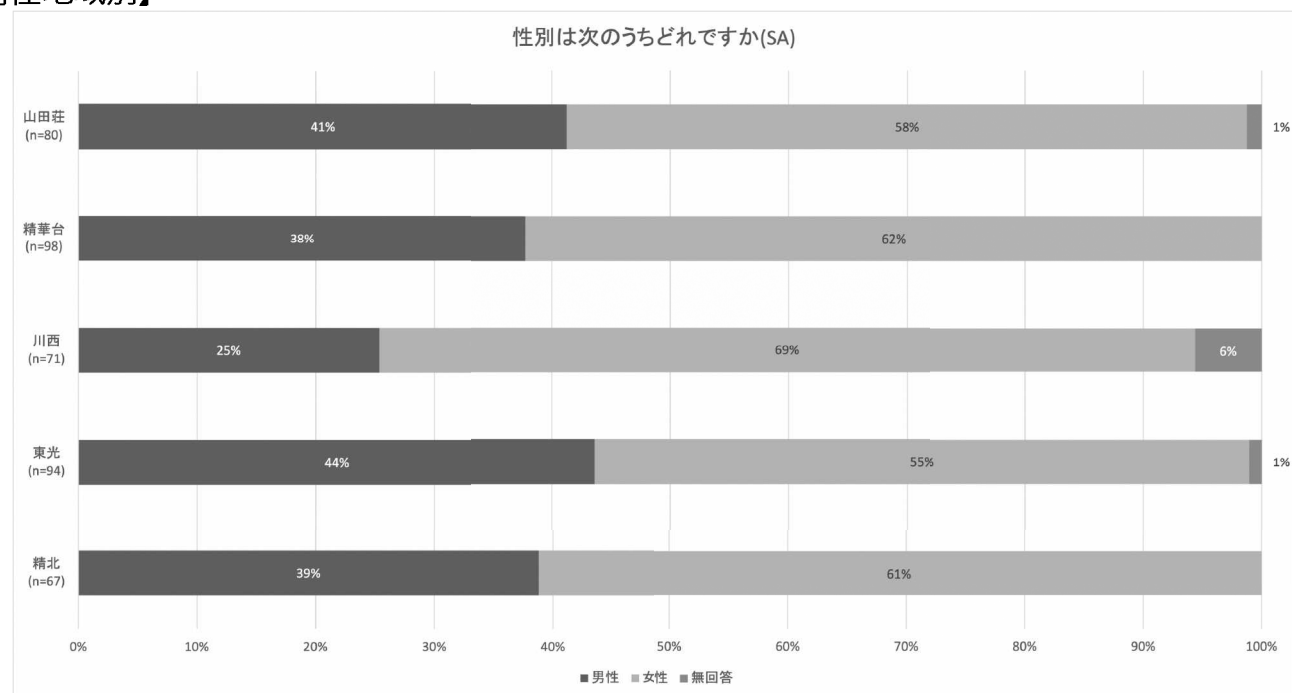
～性別は次のうちどれですか【年齢別】&【居住地域別】～

質問項目「01. 性別は次のうちどれですか」について、「**年齢別**」および「**居住地域別**」の集計結果を示す。
【年齢別】



「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」の4つの年齢層においては、女性が過半数を占めていることがわかる。これは、単純集計における回答者全体の性別比が「男性：女性＝38:61」であることから、想定される傾向と一致している。一方で、「16～19歳」(n=4)および「80歳以上」(n=8)は回答者数が極めて少なく、それらの数値については慎重な解釈が求められる。

【居住地域別】

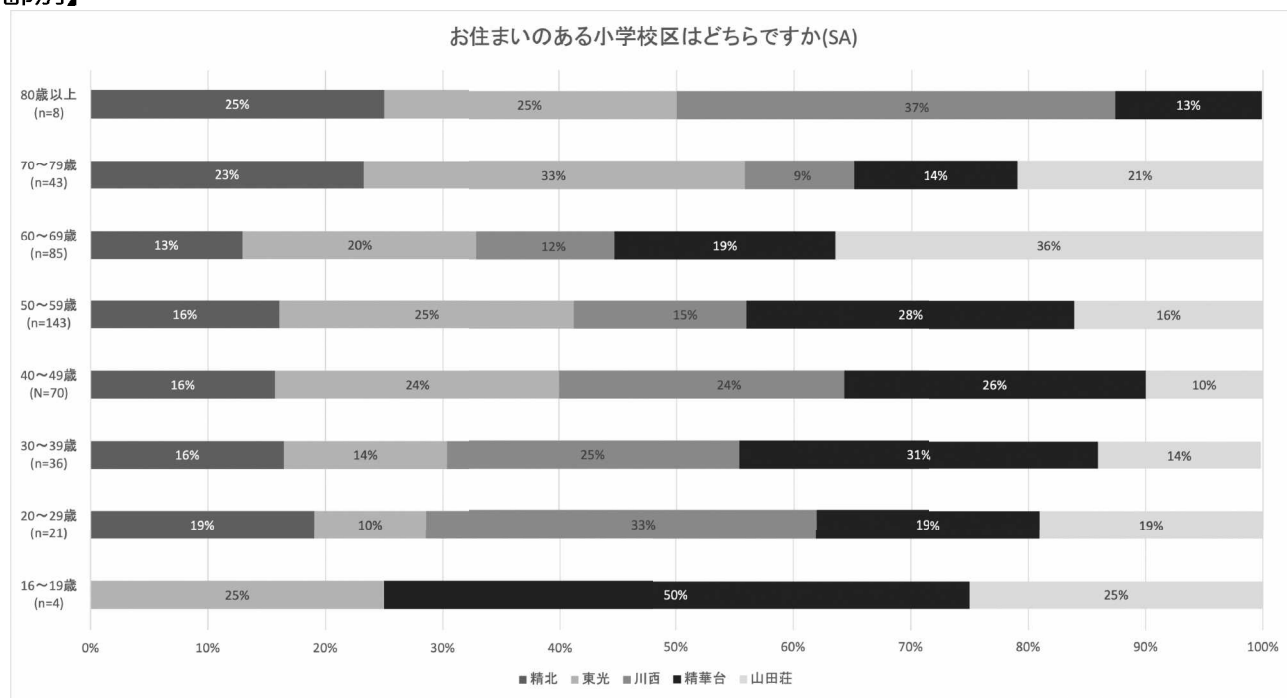


「山田荘」や「精華台」、「精北」では、女性の割合が約60%で、男女比は比較的バランスが取れているが、全体的には女性がやや多い。「東光」では男性44%・女性55%で、他地域と比べてやや男性の割合が高い。一方、「川西」では女性が69%を占めており、最も女性比率が高い地域となっている。以上より、居住地域によって性別構成に違いが見られ、一定の偏りが存在することがわかる。

年代別・居住地域別の精華町について

～お住まいのある小学校区はどちらですか【年齢別】～

質問項目「03. お住まいのある小学校区はどちらですか」について、「年齢別」の集計結果を示す。
【年齢別】

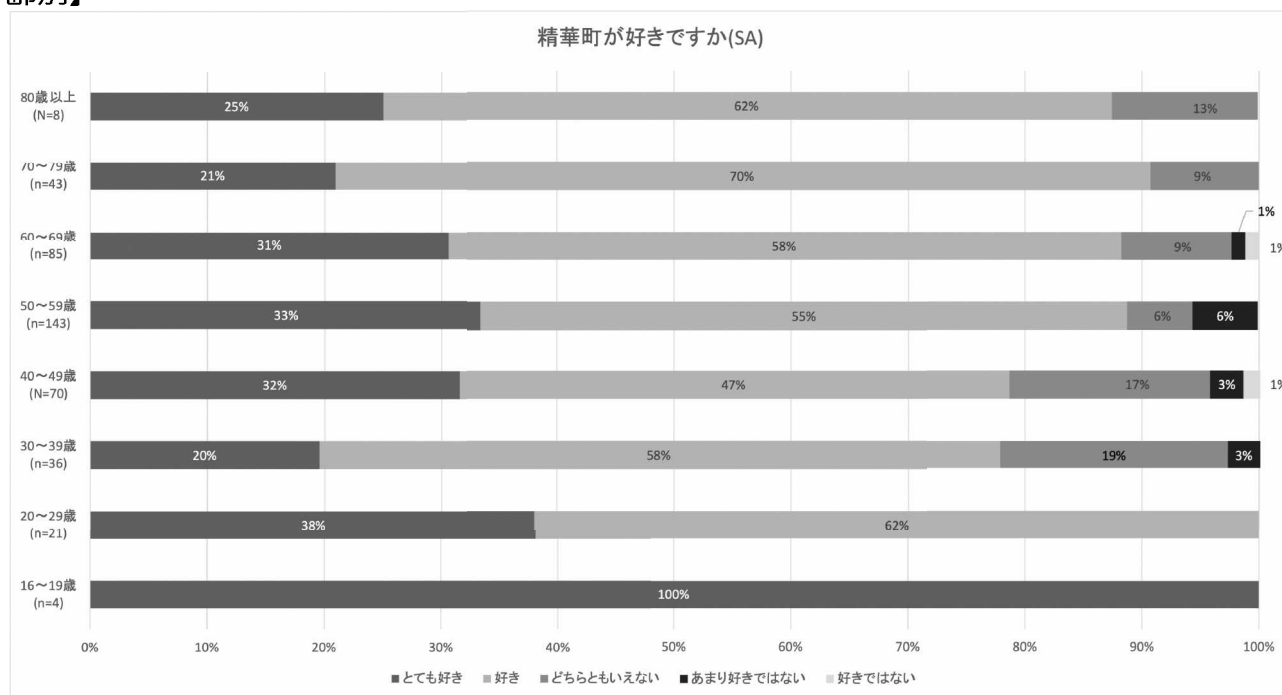


年齢層によって居住する小学校区の傾向に違いが見られる。「20～29歳」では「川西」(33%)、「30～39歳」では「精華台」(31%)が最も多く、どちらも「東光」が少ない傾向。「40～59歳」では、「精華台」が比較的多いが、「精北」や「東光」も一定数存在し、複数校区に分かれたバランスの取れた分布となっている。「60～69歳」においては、「山田荘」への集中が見られる。「70～79歳」では「東光」が33%と最も多くなっている。なお、「16～19歳」で「精華台」(50%)、「80歳以上」で「川西」(37%)が、他の年代に比べて最も多いことが読み取れるが、いずれも回答者数が少ないため、結果の解釈には注意が必要である。

年代別・居住地域別の精華町について

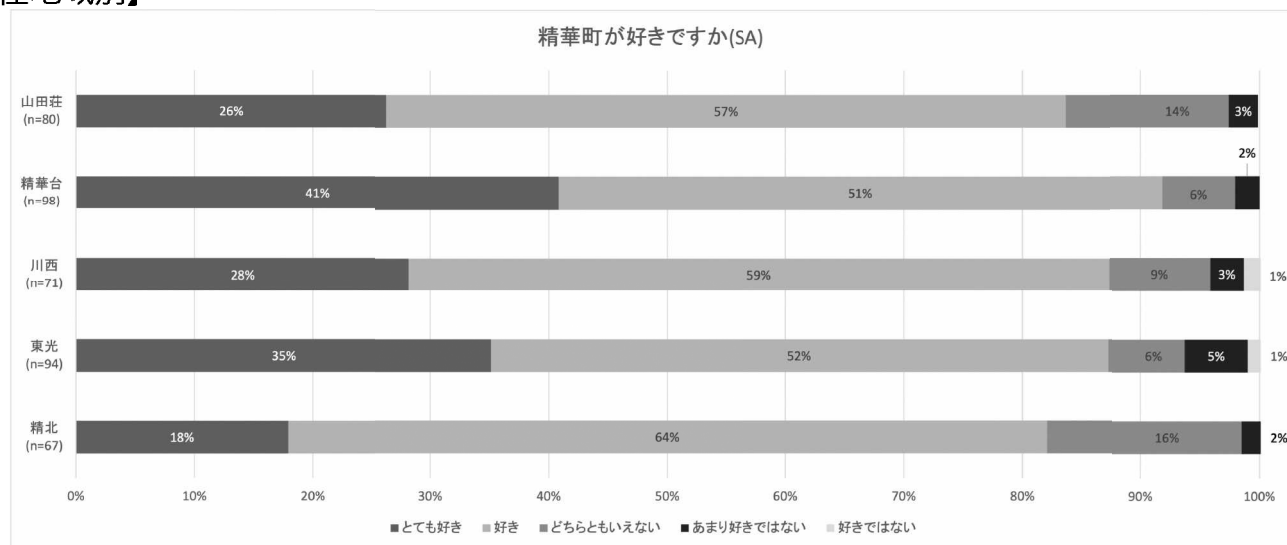
～精華町が好きですか【年齢別】&【居住地域別】～

質問項目「04. 精華町が好きですか」について、「**年齢別**」および「**居住地域別**」の集計結果を示す。
【年齢別】



すべての年齢層において、「とても好き」または「好き」と回答した人の割合が高く、精華町に対する好意的な評価が広く共有されていることがわかる。特に「20～29歳」では、回答者全員が肯定的選択肢を選んでおり、最も好意度が高い年齢層となっている。「とても好き」と「好き」の合計が最も低い「30～39歳」でも約78%にのぼっており、他の年代と比べてやや低い傾向ではあるが、依然として多数がポジティブな評価を示している。なお、「16～19歳」および「80歳以上」の年齢層においては、回答者数が非常に少ないため、傾向の解釈には注意が必要である。

【居住地域別】

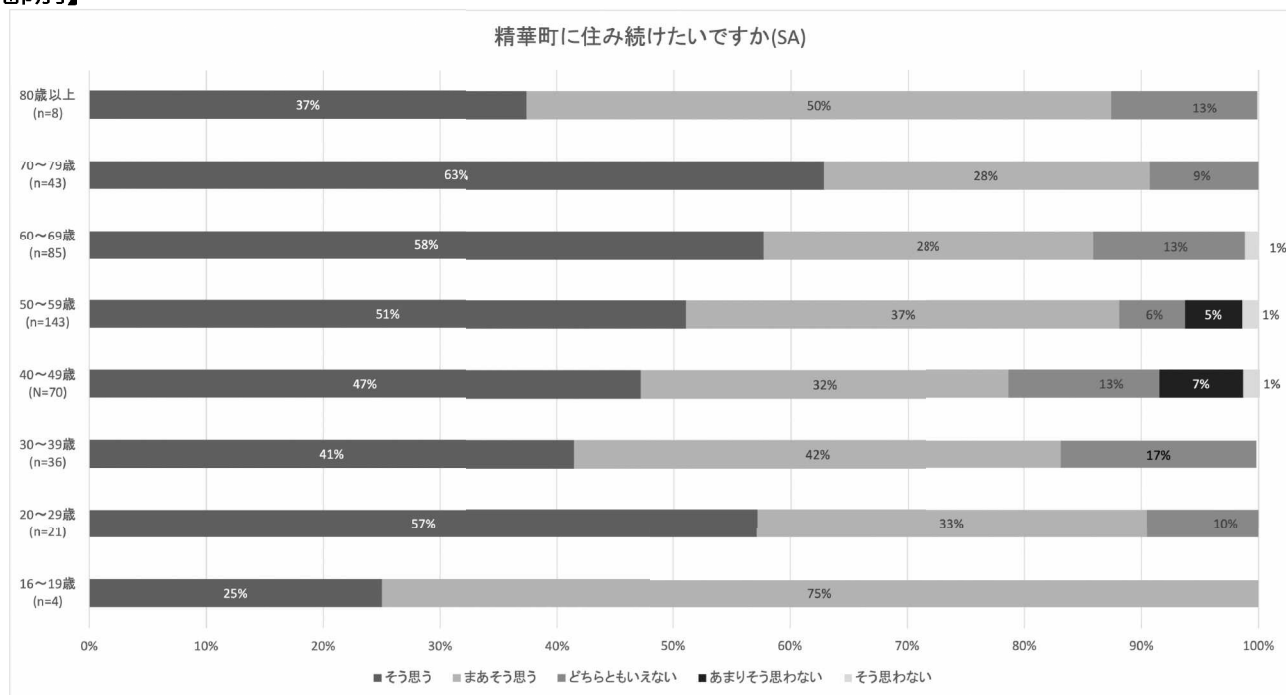


すべての居住地域において、「とても好き」または「好き」と回答した人の割合が高く、精華町に対して好意的な評価が広く見られる。なかでも、「とても好き」と「好き」の合計割合が最も高いのは「精華台」で、約92%に達している。一方で、最も低い「精北」においても、その割合は約82%と高く、全体的に精華町に対する肯定的な印象が強いことが窺える。

年代別・居住地域別の精華町について

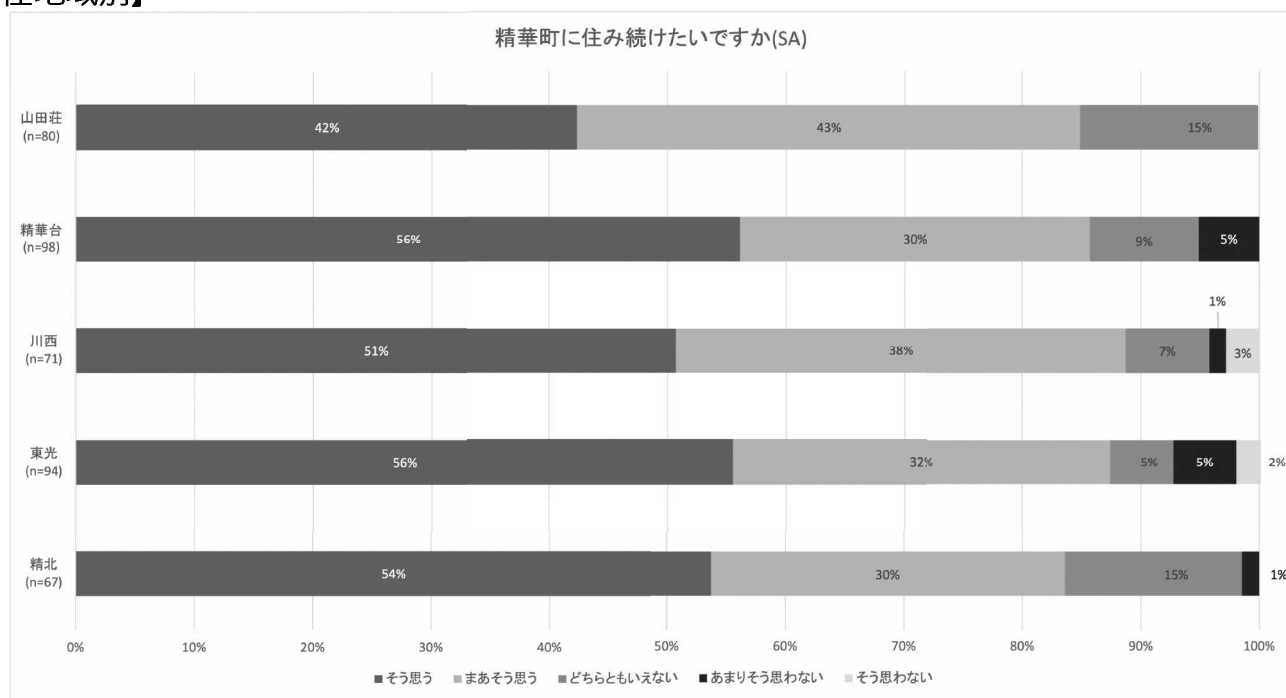
～精華町に住み続けたいですか【年齢別】&【居住地域別】～

質問項目「05. 精華町に住み続けたいですか」について、「**年齢別**」および「**居住地域別**」の集計結果を示す。
【年齢別】



すべての年齢層で「そう思う」あるいは「まあそう思う」と回答した人が過半数を占めており、総じて精華町への居住継続意向は高い。特に「70～79歳」(63%)や「60～69歳」(58%)、「20～29歳」(57%)では「そう思う」の割合が高く、積極的な支持が見られる。「30～39歳」や「40～49歳」では、「どちらともいえない」や「そう思わない」の割合がやや高く、他年代と比較して居住継続意向がやや低い傾向が読み取れる。なお、「16～19歳」および「80歳以上」は回答者数が少ないため、傾向の解釈には注意が必要である。

【居住地域別】

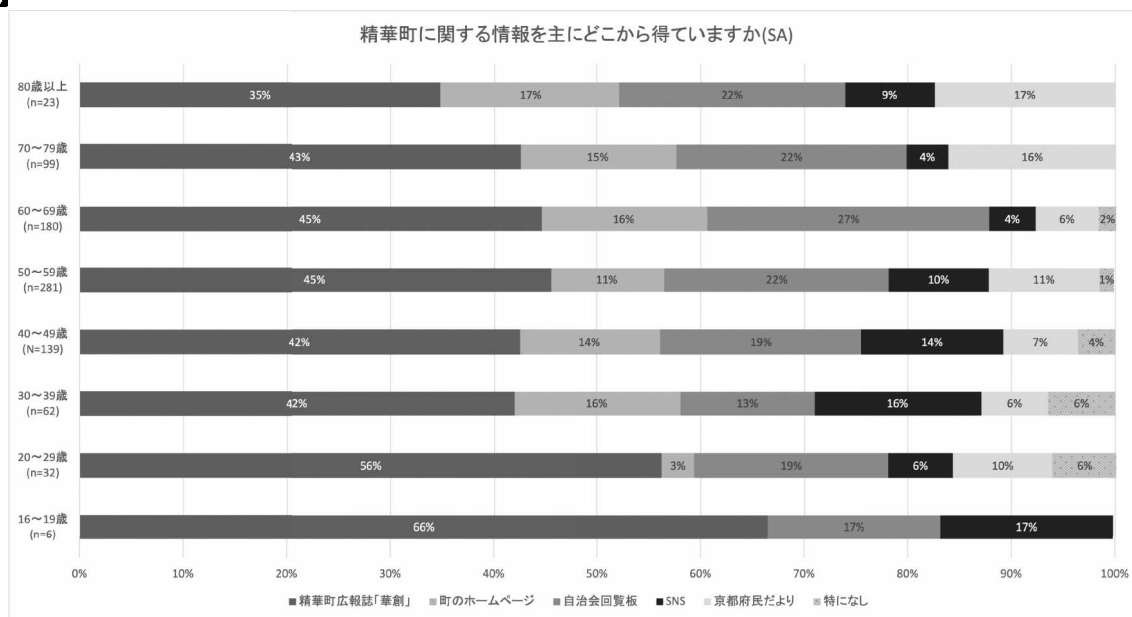


すべての地域で「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人が8割以上を占め、精華町への愛着の高さがうかがえる。なかでも「精華台」(56%)と「東光」(56%)では「そう思う」の割合が特に高く、積極的な定住意向が強く表れている。一方で、「山田荘」では「まあそう思う」(43%)が最も多く、「そう思う」は42%とやや控えめながらも全体として高水準である。

年代別・居住地域別の精華町について

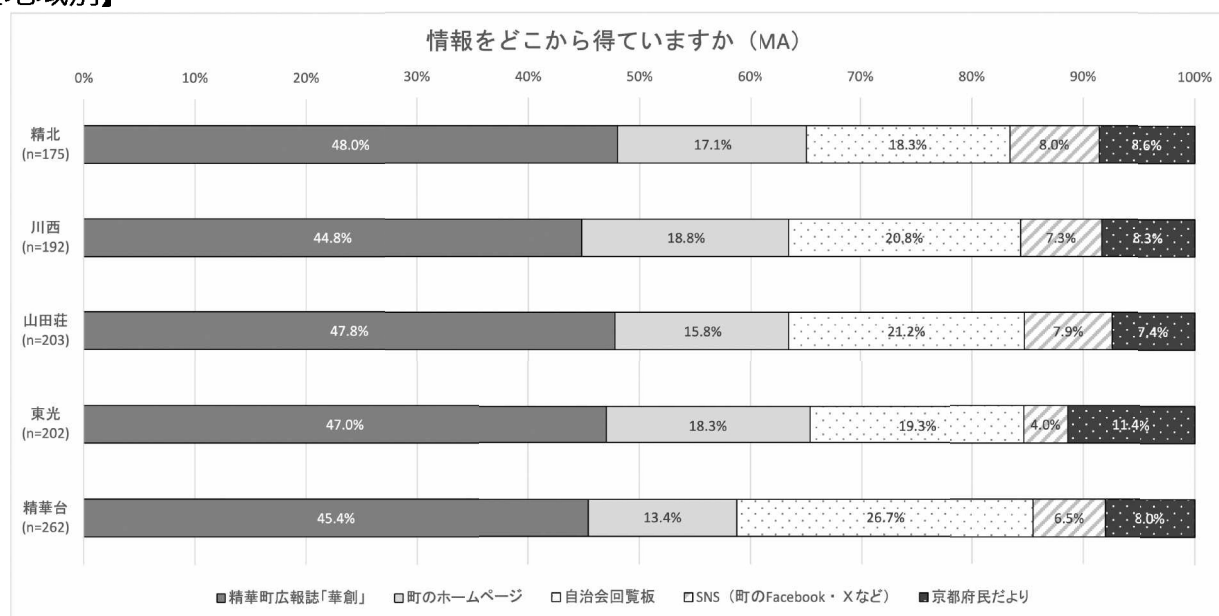
～情報を主にどこから得ていますか【年齢別】&【居住地域別】～

質問項目「06. 情報をどこから得ていますか」について、「**年齢別**」および「**居住地域別**」の集計結果を示す。
【年齢別】



すべての年齢層において、最も多くの人々が情報源として挙げたのは「精華町広報誌「華創」」である。特に「20～29歳」(56%)の若年層で高い割合を示しており、世代を問わず町の広報誌が主要な情報媒体となっていることがわかる。次いで多いのは「自治会回覧板」であり、「60～69歳」では27%と比較的高く、特に高齢層においては伝統的な地域ネットワークが今も重要な情報経路となっている。「SNS」については、「40～49歳」(14%)や「30～39歳」(16%)でやや高く、他の年代と比較して中堅層における活用が目立つ。若年層(20代以下)でも一定の割合が見られるが、主要な情報源とはなっていない。一方、「町のホームページ」はすべての年代で1～2割程度にとどまり、「京都府民だより」は10%前後で安定しており、補助的な情報源としての役割がうかがえる。

【居住地域別】



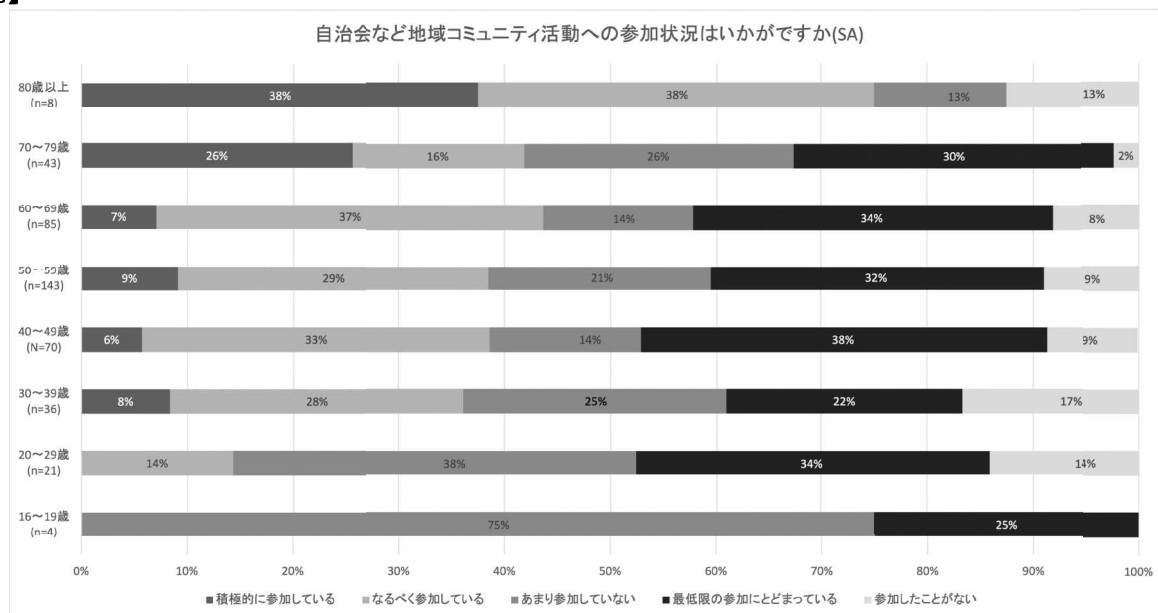
すべての居住地域において、最も多くの住民が情報源として挙げたのは「精華町広報誌「華創」」であり、地域間で大きな差は見られない。「自治会回覧板」は「精華台」(26.7%)で比較的多く、地域の自治組織が情報共有に果たす役割の大きさがうかがえる。「町のホームページ」はすべての地域で15～19%程度となっており、「川西」(18.8%)や「東光」(18.3%)がやや高い傾向にあるものの、全体として中程度の情報源として位置づけられている。「SNS」については、いずれの地域でも1割未満であり、「東光」が4.0%と最も低い。「精北」(8.0%)や「山田荘」(7.9%)ではやや高い傾向が見られるが、依然として限定的な情報取得手段であることがわかる。

年代別・居住地域別の精華町について

～ 自治会など地域コミュニティ活動への参加状況はいかがですか【年齢別】&【居住地域別】～

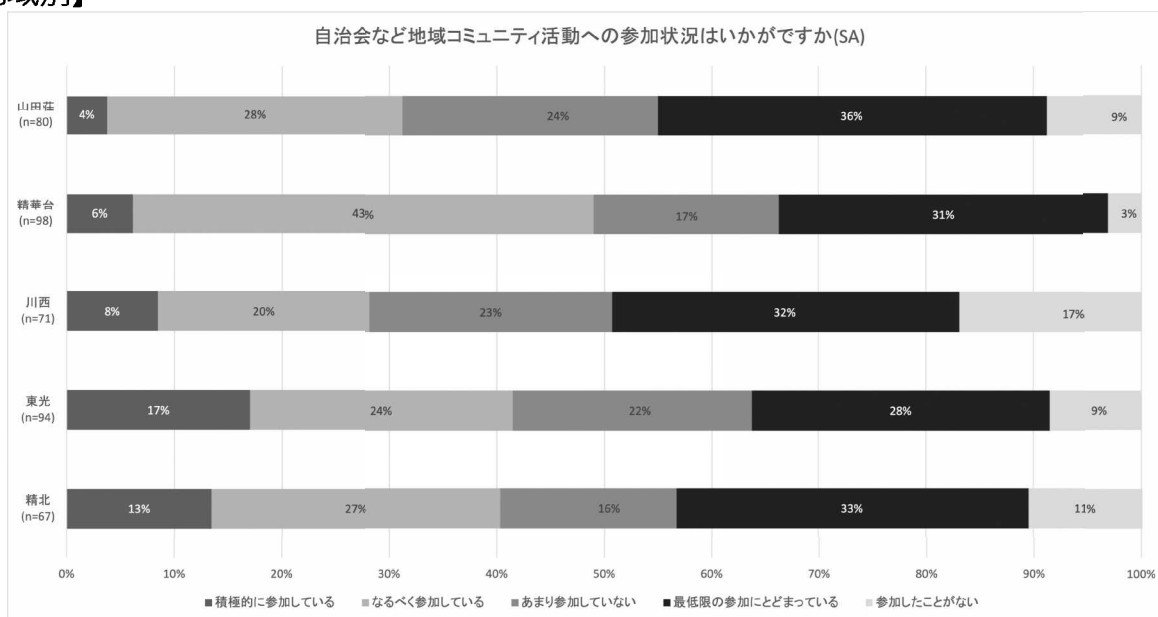
質問項目「07. 自治会など地域コミュニティ活動への参加状況はいかがですか」について、「年齢別」および「居住地域別」の集計結果を示す。

【年齢別】



「積極的に参加している」あるいは「なるべく参加している」と回答した人の割合が最も高い年齢層は「60～69歳」(約44%)で、次に高い年齢層は「70～79歳」(約42%)である。また、他の年齢層と比べて「30～39歳」と「20～29歳」における「参加したことがない」と回答した人の割合がやや高いことが読み取れる。なお、「16～19歳」および「80歳以上」の年齢層においては、回答者数が非常に少ないため、傾向の解釈には注意が必要である。

【居住地域別】



「積極的に参加している」あるいは「なるべく参加している」と回答した人の割合が最も高い地域は「精華台」(約49%)であり、最も低い地域は「川西」(約28%)である。これらは約21%の差があり、地域差があることが確認できる。また、「あまり参加していない」あるいは「最低限の参加にとどまっている」と回答した人の割合はどの地域でも約50～60%であり、地域別でそれほど大きな差は見られない。

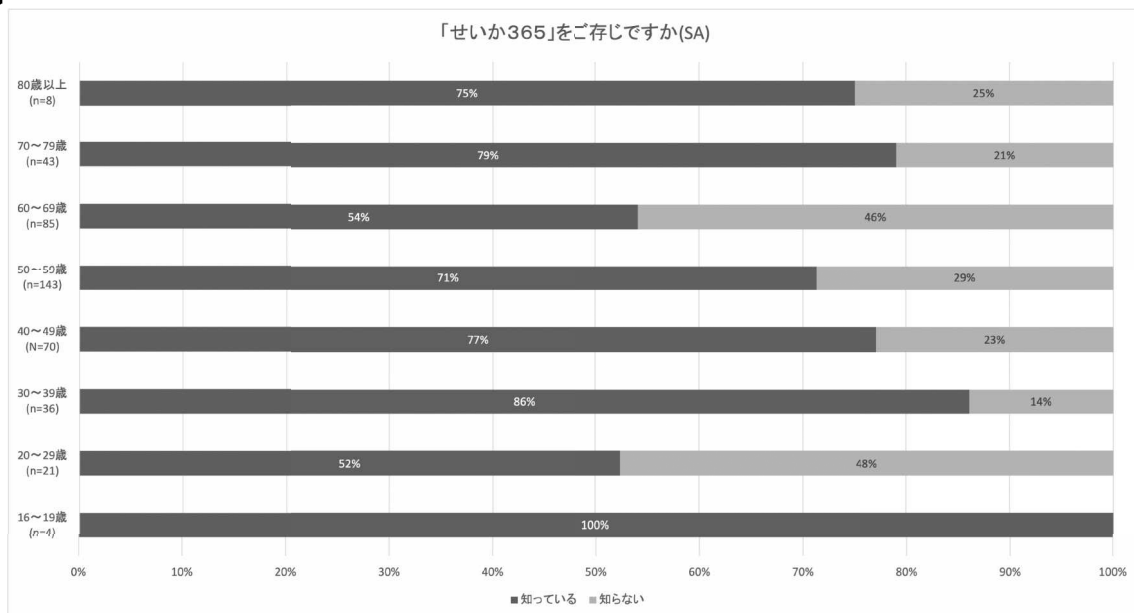
年代別・居住地域別の精華町について

～ 健やかで元気なまちづくりを進める「せいか365」の取り組みを進めています。

この「せいか365」をご存じですか【年齢別】&【居住地域別】～

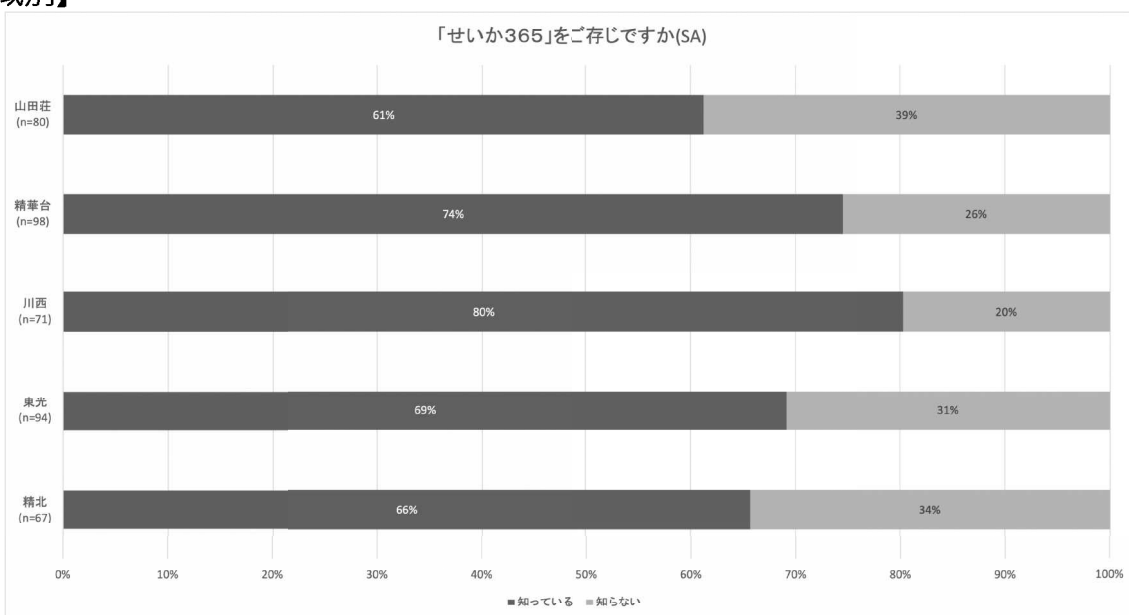
質問項目「08.「せいか365」をご存じですか」について、「年齢別」および「居住地域別」の集計結果を示す。

【年齢別】



ほ全体として、多くの年齢層で「せいか365」を知っている人が過半数を占めており、特に「30～39歳」では認知率が86%と最も高い。一方で、60代と20代の認知率はそれぞれ54%、52%とやや低く、他の年齢層に比べて認知が浸透していない傾向がある。特に20代は、比較的情報接触機会が多そうな年代であるにもかかわらず、「知らない」が48%に上っている点は注目に値する。この結果から、若年層への情報発信の工夫や、20～30代へのリーチ手段の見直しが今後の課題として挙げられる。

【居住地域別】



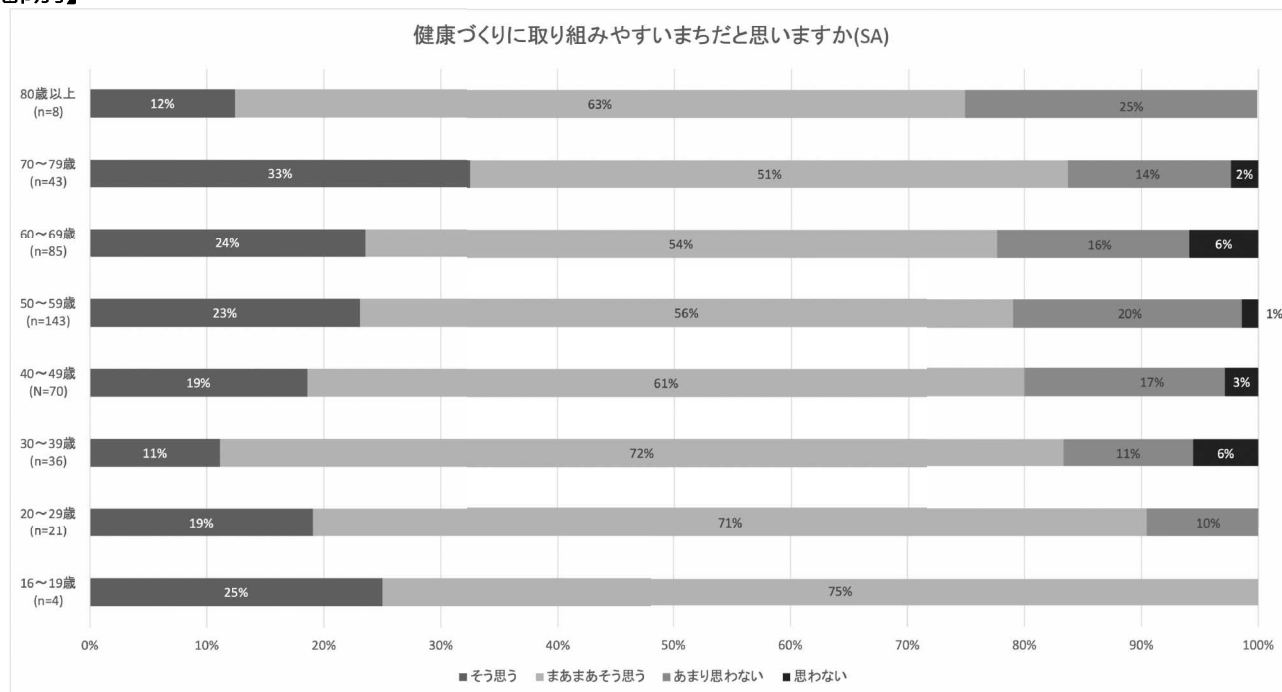
地域別に見ると、「川西」では80%の住民が「せいか365」を認知しており、5地域の中で最も高い認知率を示している。次いで「精華台」74%、「東光」69%、「精北」66%と続き、これらの地域では約2/3以上が「せいか365」の存在を把握している。一方で「山田荘」では認知率が61%と、他地域に比べてやや低い水準にとどまっており、39%が「知らない」と回答している。この地域においては、さらなる情報の周知やアプローチ方法の再考が求められる。

年代別・居住地域別の精華町について

～ 精華町は健康づくりに取り組みやすいまちだと思いますか【年齢別】&【居住地域別】～

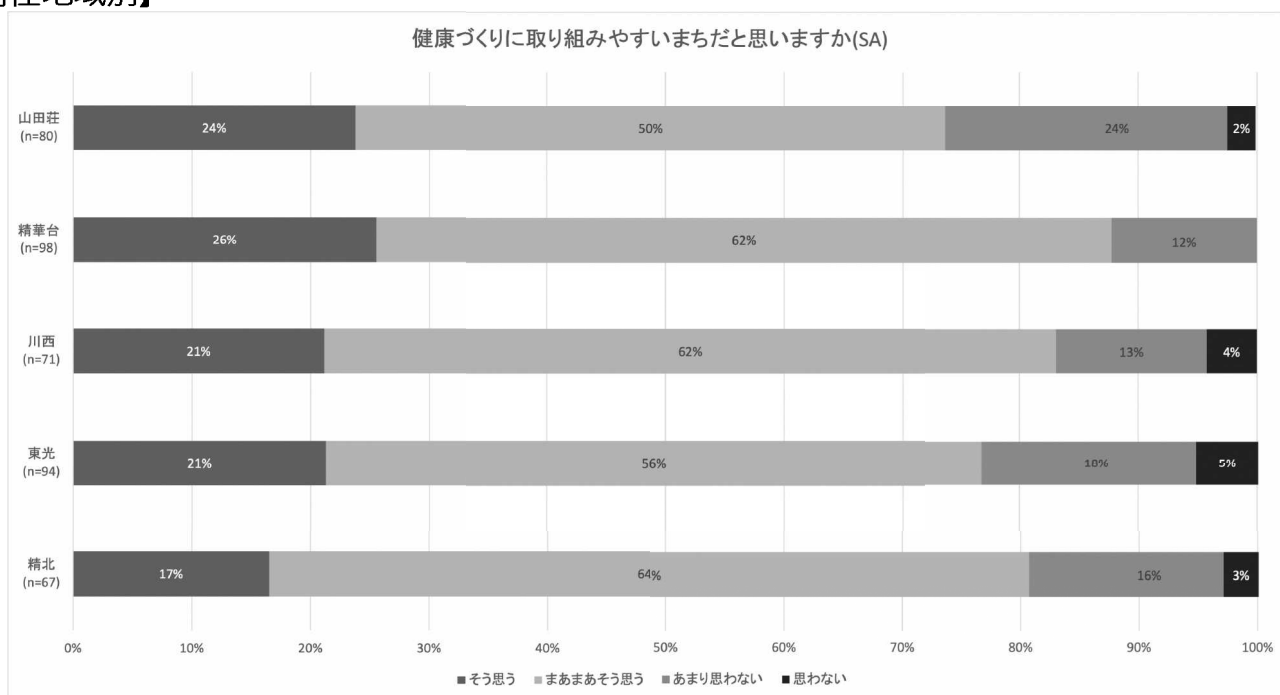
質問項目「09. 精華町は健康づくりに取り組みやすいまちだと思いますか」について、「**年齢別**」および「**居住地域別**」の集計結果を示す。

【年齢別】



全体として、「そう思う」または「まあまあそう思う」と肯定的に捉えている割合は70%以上で、どの年齢層でも多数を占めている。肯定的な回答の割合が最も高いのは「20～29歳」で約90%、最も低いものでも「60～69歳」で約78%である。

【居住地域別】



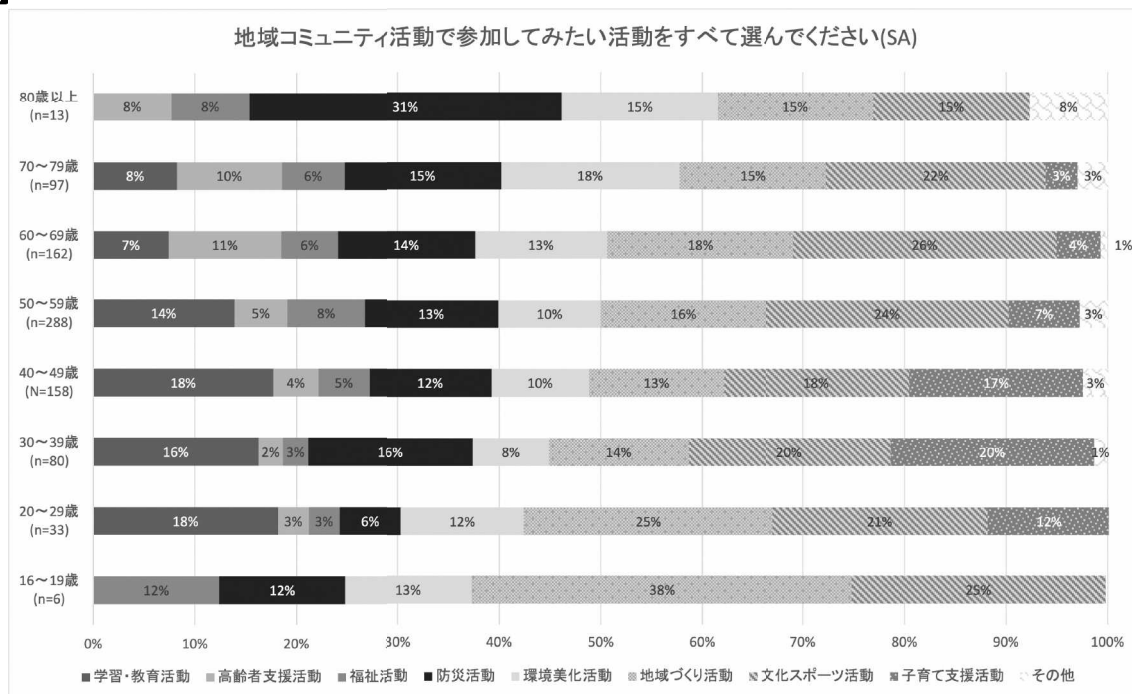
いずれの地域においても「そう思う」または「まあまあそう思う」と答えた肯定的回答が7割を超えており、各地域で一定の評価が得られていることがわかる。肯定的回答割合が最も高い地域は「精華台」で約88%、最も低い地域でも「山田荘」の約74%である。

年代別・居住地域別の精華町について

～ 精華町外の方にお勧めしたい精華町の魅力はなんですか【年齢別】&【居住地域別】～

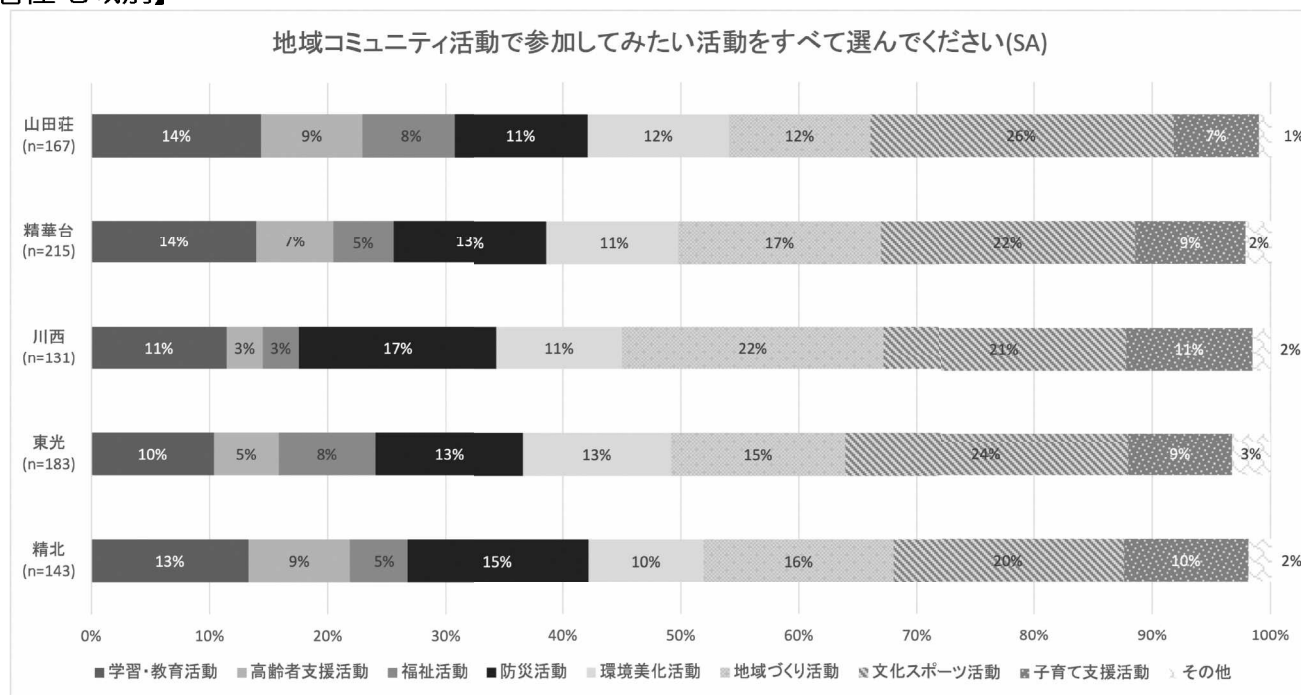
質問項目「10. 地域コミュニティ活動で参加してみたい活動をすべて選んでください」について、「年齢別」および「居住地域別」の集計結果を示す。

【年齢別】



全年代を通じて、「地域づくり活動」や「文化スポーツ活動」への関心が高い傾向が見られる。「20～29歳」で「地域づくり活動」(25%)と「文化スポーツ活動」(21%)の割合が高い。「60～69歳」では「文化スポーツ活動」(26%)が最多であり、「70～79歳」や「80歳以上」でも一定割合を示している。特に「80歳以上」では「防災活動」(31%)が最も高く、災害への備えに対する関心の高さが窺える。

【居住地域別】



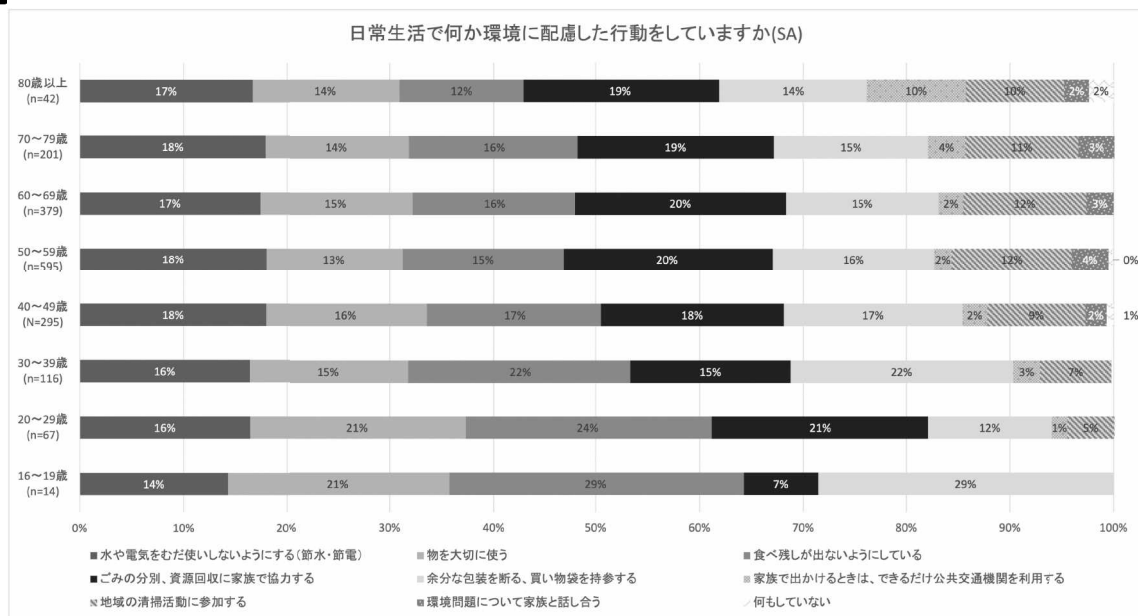
すべての地域において、「文化スポーツ活動」への関心が高く、最も高い「山田荘」で26%を占めている。地域ごとに特徴的な傾向も見られる。例えば、「川西」では「防災活動」(17%)と「地域づくり活動」(22%)への関心が高く、防災意識の高さや地域貢献意欲の強さがうかがえる。また、「学習・教育活動」や「環境美化活動」は全体的に10～14%程度の割合を占めており、安定した関心を集めている。

年代別・居住地域別の精華町について

～ 日常生活で何か環境に配慮した行動をしていますか【年齢別】&【居住地域別】～

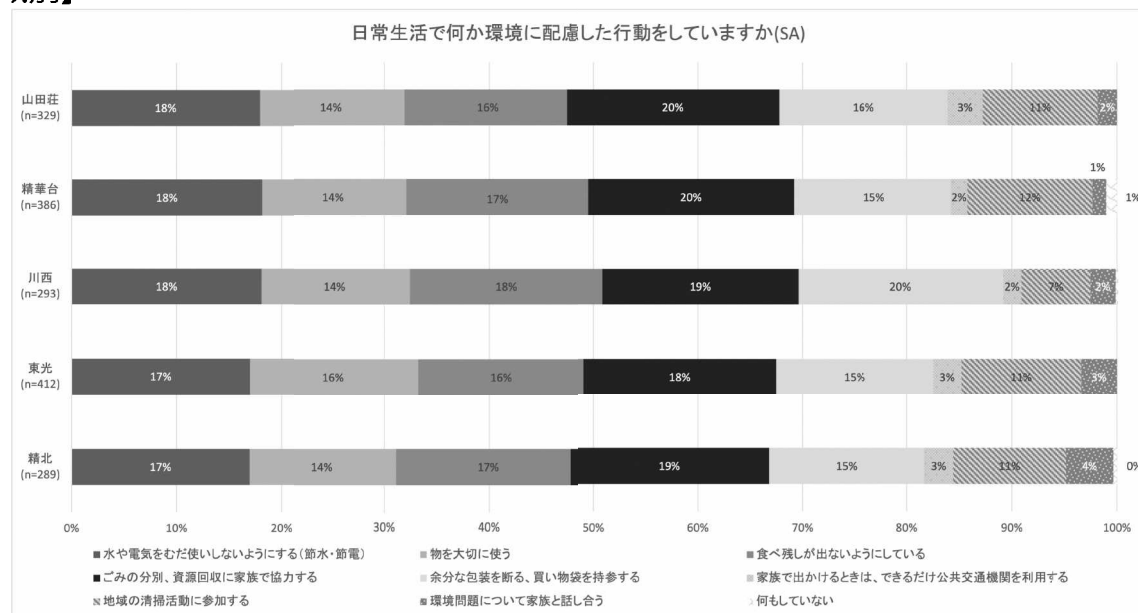
質問項目「11. 日常生活で何か環境に配慮した行動をしていますか」について、「**年齢別**」および「**居住地域別**」の集計結果を示す。

【年齢別】



各年齢層で一定の環境配慮行動が見られる一方、行動の種類や強度には違いがある。「水や電気をむだ使いしないようにする(節水・節電)」は全年代で安定した割合(約14～18%)を占めている。20代では「物を大切に使う」「食べ残しが出ないようにしている」「ごみの分別」などが比較的高く、身近な行動への実践志向が強いこと読み取れる。50代以上では「公共交通機関を利用する」や「地域の清掃活動に参加する」が20代、30代と比べて、高い傾向があることもわかる。

【居住地域別】



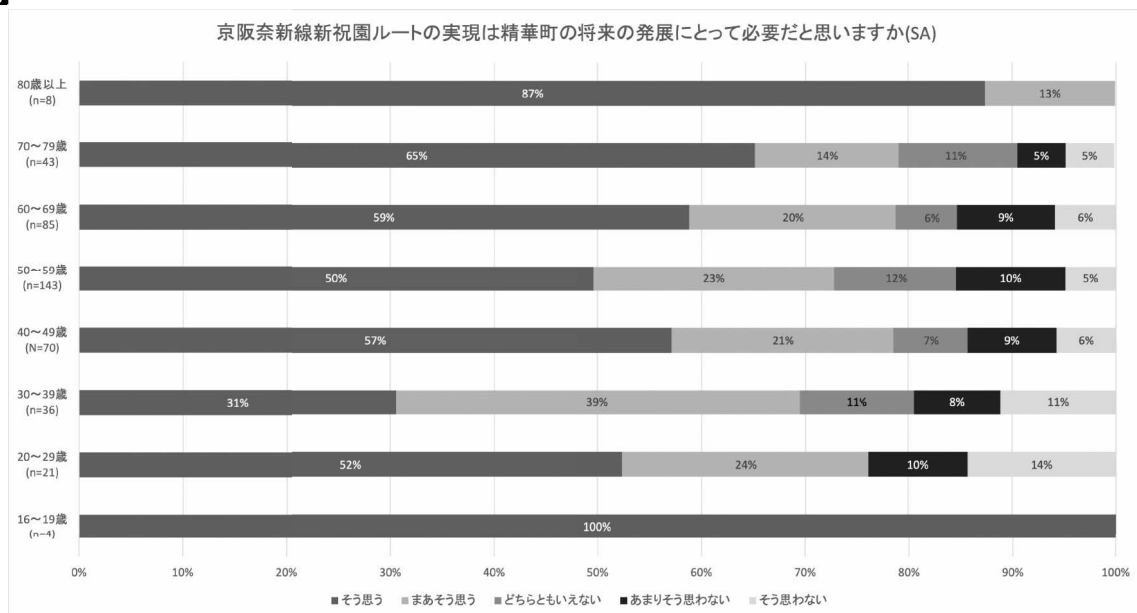
環境配慮行動の実施状況については、地域間での大きな差異はほとんど見られない。最も割合の高い行動は「ごみの分別、資源回収に家族で協力する」で、いずれの地域でも19～20%を占めている。「地域の清掃活動に参加する」について、「川西」が約7%と他地域よりやや低い傾向が見られるが、地域間での回答分布は概ね安定している。

年代別・居住地域別の精華町について

～京阪奈新線新祝園ルートの実現は
精華町の将来の発展にとって必要だと思いますか【年齢別】&【居住地域別】～

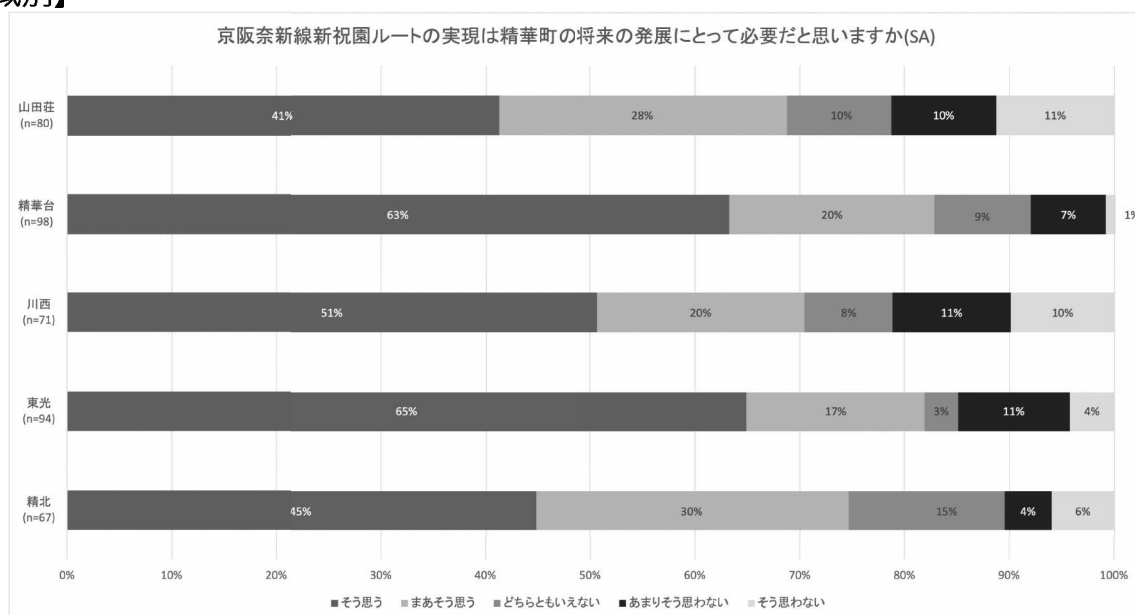
質問項目「13. 京阪奈新線新祝園ルートの実現は精華町の将来の発展にとって必要だと思いますか」について、「**年齢別**」および「**居住地域別**」の集計結果を示す。

【年齢別】



「そう思う」と回答した人の割合は、年代ごとにばらつきがあるが、60代で約59%、70代で約65%に達しており、高齢世代の方が高い傾向が見られる。一方、30～39歳では「必要だと思う」が31%にとどまり、「まあそう思う」との回答も含めても70%である。若年層では「どちらともいえない」や「あまりそう思わない」といった中立・否定的な意見の割合が相対的に高く、将来的な都市開発に対する実感の差が世代によって現れていると考えられる。

【居住地域別】

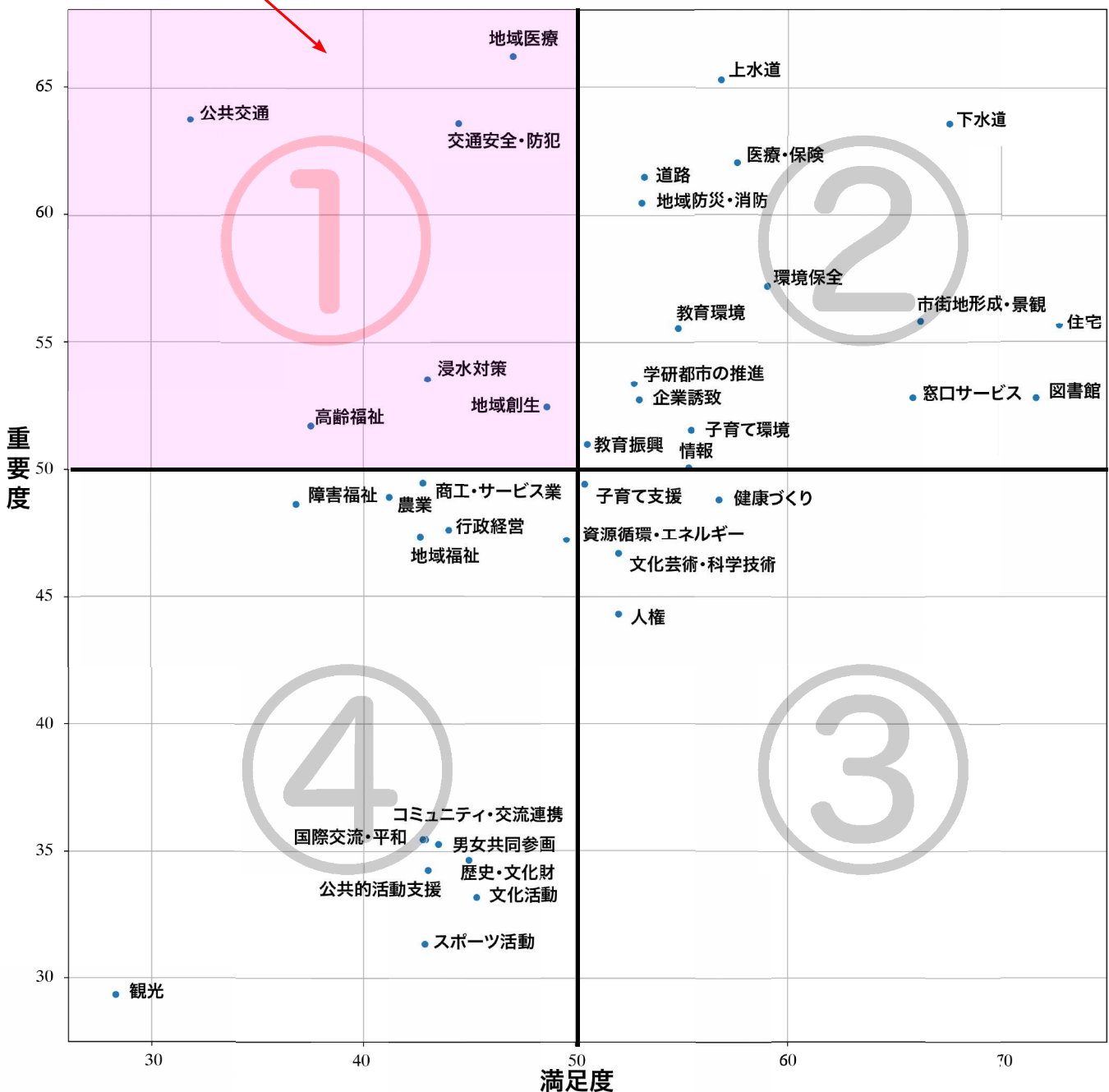


地域別に見ると、「そう思う」と肯定的に捉えている割合は、「精華台」(63%)と「東光」(65%)が比較的高く、他地域と比べて前向きな姿勢がうかがえる。一方で、「山田荘」(41%)や「精北」(45%)はやや低めであり、慎重な姿勢が垣間見える。全体としては肯定的な意見が過半を占めているが、地域によって期待値や関心度に若干の違いが見られる。

「現在の満足度」と「今後の重要度」の関係

質問項目「12. 精華町の取り組みについて、「キーワード」に対する現在の「満足度」とこれからのまちづくりの「重要度」についておたずねします。」について、4段階で評価された満足度と3段階で重要度を2次元平面上にプロットした散布図を示す。ただし、各キーワードに対応する満足度および重要度の値は全回答の平均値を採用し、全キーワードにおける各キーワードの満足度および重要度の偏差値を、それぞれ、 x および y の値として x - y 平面にプロットした。

重要度が高く(平均以上)、満足度が低い(平均以下)領域なので、「ニーズが高い」領域であるといえる



領域①(上図左上部)にプロットされたキーワードは「満足度が低い」かつ「重要度が高い」、つまり、「ニーズが高い」ことを意味する。よって、領域①に含まれる6個のキーワード「公共交通」「地域医療」「高齢福祉」「交通安全・防犯」「浸水対策」「地域創生」はニーズの高い取り組みであるとみなせる。

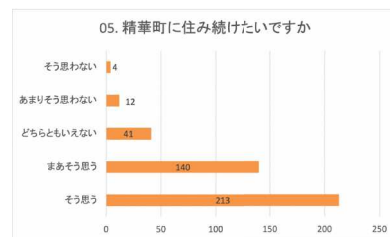
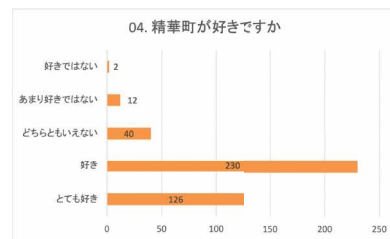
中程度以上の連関があるクロス集計の抜粋

「04. 精華町が好きですか。」×「05. 精華町に住み続けたいですか。」

表1. クロス集計表(精華町が好き x 精華町に住み続けたい)

04 \ 05	そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	Total
とても好き	116	8	1	1	0	126
好き	95	122	11	1	1	230
どちらともいえない	2	8	27	3	0	40
あまり好きではない	0	2	2	7	1	12
好きではない	0	0	0	0	2	2
Total	213	140	41	12	4	410

精華町が好きな人が多数を占めており、その多くが精華町に住み続けたいと考えている



単純集計の結果、「04. 精華町が好きですか」において「とても好き」または「好き」と回答した人は全体410人中356人であり、約86.8%を占めた。また、「05. 精華町に住み続けたいですか」において「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人は353人で、全体の約86.1%であった。クロス集計表をみると、「精華町がとても好き」と回答した人のうち約92%が「住み続けたい(そう思う)」と回答しており、「好き」と答えた人でも約94%が「そう思う」または「まあそう思う」と回答している。これらの結果から、「精華町が好きである」という感情は「住み続けたい」という意思と強く結びついているといえる。実際、これら2つの項目間の連関係数は0.62であり、統計的にも強い正の連関が認められる。

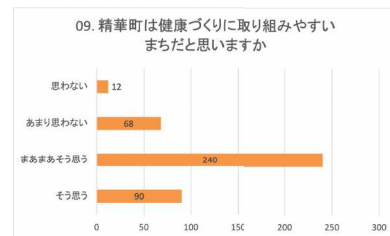
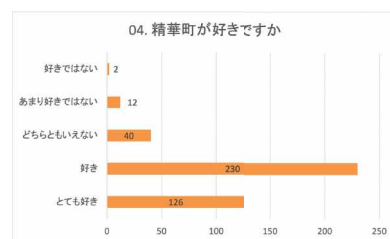
「04. 精華町が好きですか。」

×「09. 精華町は健康づくりに取り組みやすいまちだと思いますか。」

表2. クロス集計表(精華町が好き x 健康づくりに取り組みやすいまち)

04 \ 09	そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	Total
とても好き	62	54	9	1	126
好き	28	162	37	3	230
どちらともいえない	0	21	15	4	40
あまり好きではない	0	3	7	2	12
好きではない	0	0	0	2	2
Total	90	240	68	12	410

精華町が好きな人のほとんどが健康づくりに取り組みやすいと回答している



単純集計の結果、「09. 精華町は健康づくりに取り組みやすいまちですか」において、「そう思う」または「まあそう思う」とポジティブに回答した人は全体410人中330人(約80.5%)であり、おおよそ8割以上の住民が好意的に評価していることがわかる。クロス集計表をみると、「04. 精華町が好きですか」で「とても好き」と回答した人のうち約92%が、「精華町は健康づくりに取り組みやすい」と感じており、「好き」と回答した人においても約83%が同様の認識を示している。これらの結果は、精華町に対する愛着が高い人ほど健康づくりに前向きな印象をもつ傾向があることを示唆している。ただし、「精華町が好き」と回答した人が全体の大多数(約87%)を占めているため、2つの設問項目の間に明確な因果関係があるとまでは断定できない点には注意が必要である。実際、これら2項目間の連関係数は0.40であり、統計的には中程度の連関があると評価される。

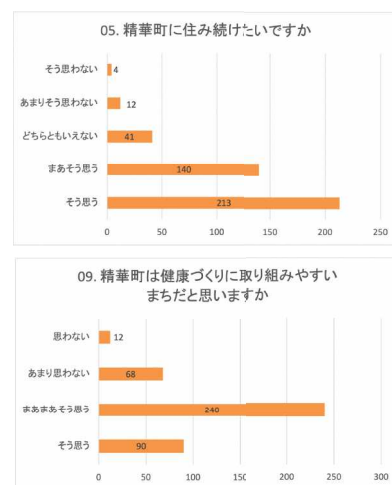
「05. 精華町に住み続けたいですか。」

×「09. 精華町は健康づくりに取り組みやすい まち だと思いますか。」

表3. クロス集計表(精華町に住み続けたい × 健康づくりに取り組みやすいまち)

05 \ 09	そう思う	まあそう思う	あまり思わない	そう思わない	Total
そう思う	77	112	22	2	213
まあそう思う	11	102	24	3	140
どちらともいえない	2	22	13	4	41
あまりそう思わない	0	3	9	0	12
そう思わない	0	1	0	3	4
Total	90	240	68	12	410

**精華町に住み続けたいと思う人のほとんどが
健康づくりに対して取り組みやすい印象をもつと回答している**



単純集計から、「05. 精華町に住み続けたいですか」において「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人は全体410人中353人(約86%)を占め、「09. 精華町は健康づくりに取り組みやすいまちですか」において「そう思う」または「まあそう思う」と回答した人も330人(約81%)と、高い割合を示している。クロス集計表からは、「住み続けたい」と強く感じている層ほど、「健康づくりに取り組みやすい」と肯定的に評価している傾向が読み取れる。実際、「05」で「そう思う」と回答した人のうち約89%が「09」でポジティブに回答しており、「まあそう思う」と回答した人のうちでも約81%が同様の認識を示している。これらの結果から、両者には一定の関連があると考えられるが、連関係数は0.37であり、統計的には中程度の関連があると解釈される。

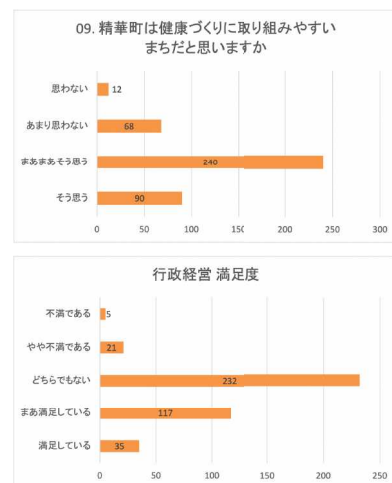
「09. 精華町は健康づくりに取り組みやすい まち だと思いますか。」

×「12. キーワード「行政経営」に対する現在の「満足度」について」

表4. クロス集計表(健康づくりに取り組みやすいまち × 「行政経営」に対する「満足度」)

09 \ 12	満足している	まあ満足している	どちらでもない	やや不満である	不満である	Total
そう思う	20	32	36	2	0	90
まあまあそう思う	12	75	137	15	1	240
あまり思わない	2	10	53	3	0	68
思わない	1	0	6	1	4	12
Total	35	117	232	21	5	410

**健康づくりに取り組みやすいと感じる人ほど
「行政経営」について満足していると回答する傾向がある**



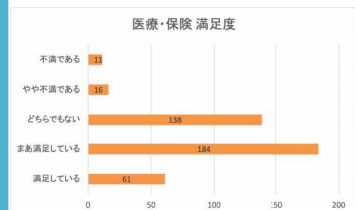
単純集計から、「12. 行政経営に対する満足度」の評価において、「どちらでもない」と回答した人が全体410人中232人と最も多く、約57%を占めることがわかる。これは他の選択肢と比べて顕著に多く、行政経営に対して評価が定まりにくい状況を示唆している可能性がある。クロス集計表からは、「09. 精華町は健康づくりに取り組みやすいまちですか」に対してポジティブに評価した人ほど、「行政経営」について「満足している」または「まあ満足している」と回答する傾向が読み取れる。実際、「そう思う」と回答した人のうち約58%が、「まあまあそう思う」と回答した人のうち約36%が行政経営にポジティブな評価をしている。2つの項目間の連関係数は0.35であり、統計的には中程度の関連があるといえる。

回答傾向の類似性に基づくネットワーク図

～キーワードに対する満足度～

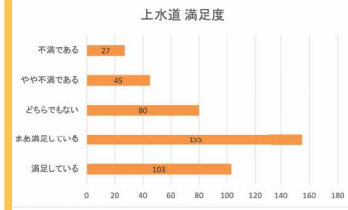
質問項目「12. 精華町の取り組みについて、「**キーワード**」に対する現在の「**満足度**」とこれからのまちづくりの「**重要度**」についておたずねします。」について、5段階で評価された**満足度**に基づき、回答傾向が類似しているキーワード同士が結ばれたネットワーク図を示す。類似度評価には、ヒストグラムインタセクションを用いて回答分布の一致度を算出した。**回答分布の一致度が90%以上**であるキーワード間を線で結びネットワーク図を作成した。また、ネットワークに対して解析処理を施し、回答傾向が類似しているキーワードの集団(クラスター)を抽出し、色分けしている。

青(5キーワード)

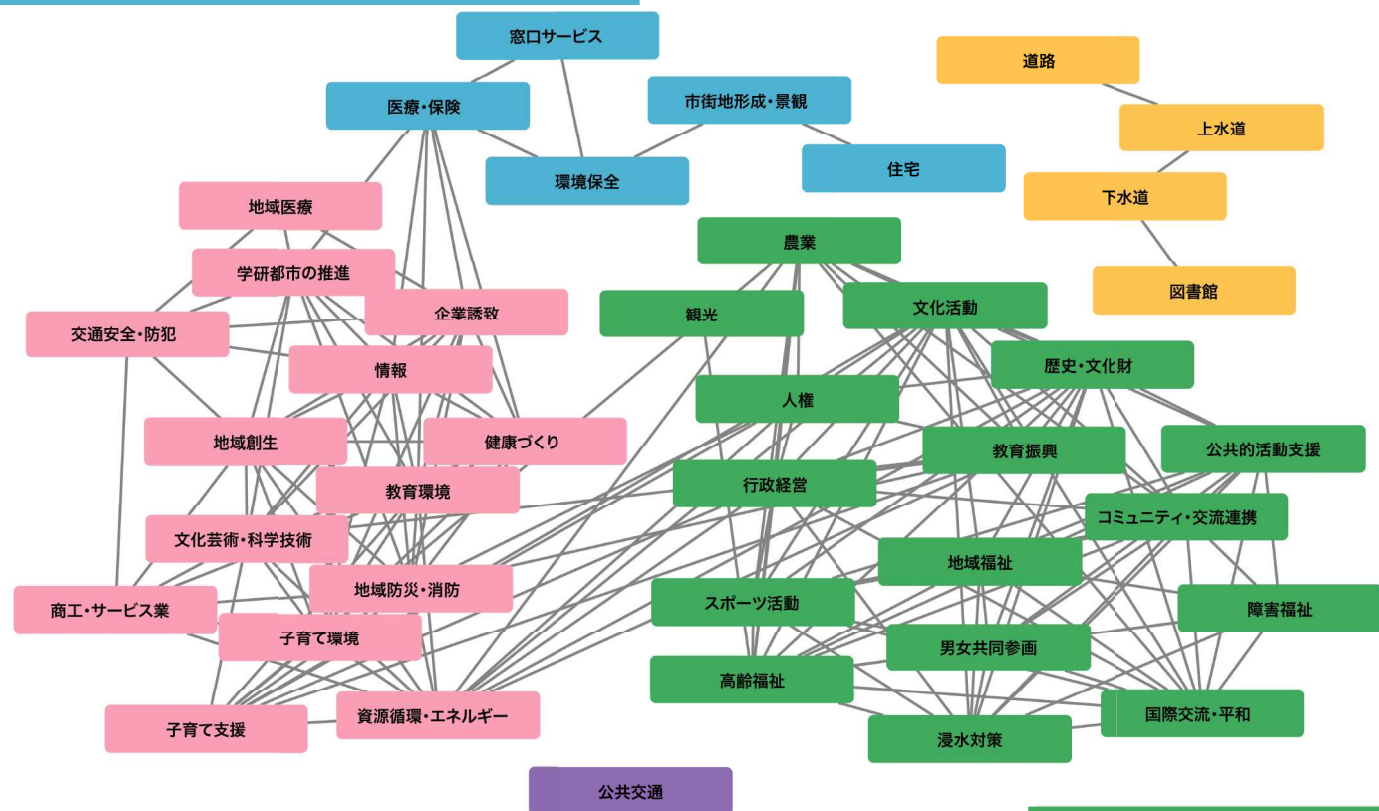


3番目に大きなクラスター。このクラスターに属するキーワードは「どちらでもない」及び「まあ満足している」に回答が集まっており、ややポジティブな評価を受けている。

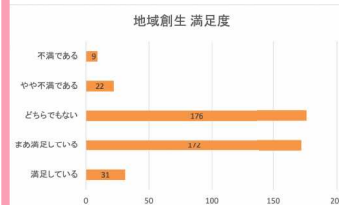
黄(4キーワード)



4番目に大きなクラスター。このクラスターに属するキーワードは「満足している」及び「やや満足している」に回答が集まっており、ポジティブな評価を受けている。

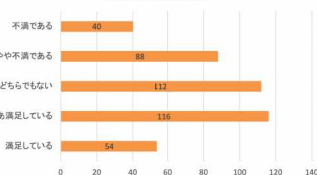


ピンク(14キーワード)



2番目に大きなクラスター。このクラスターに属するキーワードは「どちらでもない」及び「まあ満足している」に回答が集まっており、ややポジティブな評価を受けている。

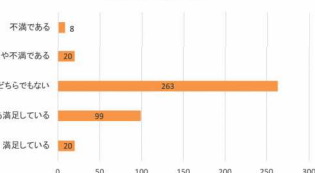
公共交通 満足度



紫(1キーワード)

「公共交通」だけが該当。「やや不満である」、「どちらでもない」、「まあ満足している」に回答が集まっており、ややネガティブな評価を受けている。

高齢福祉 満足度



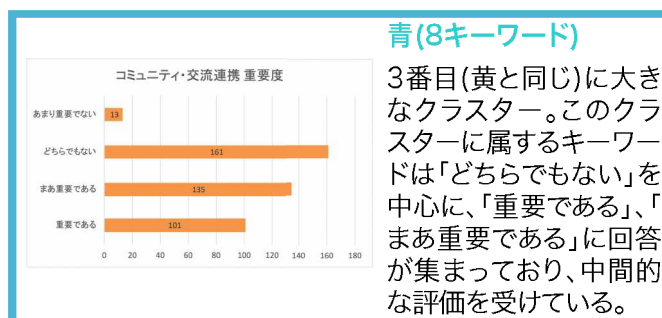
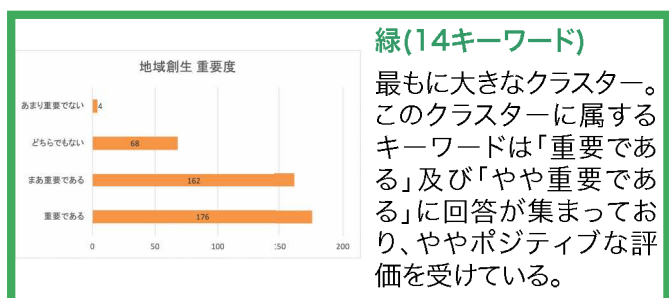
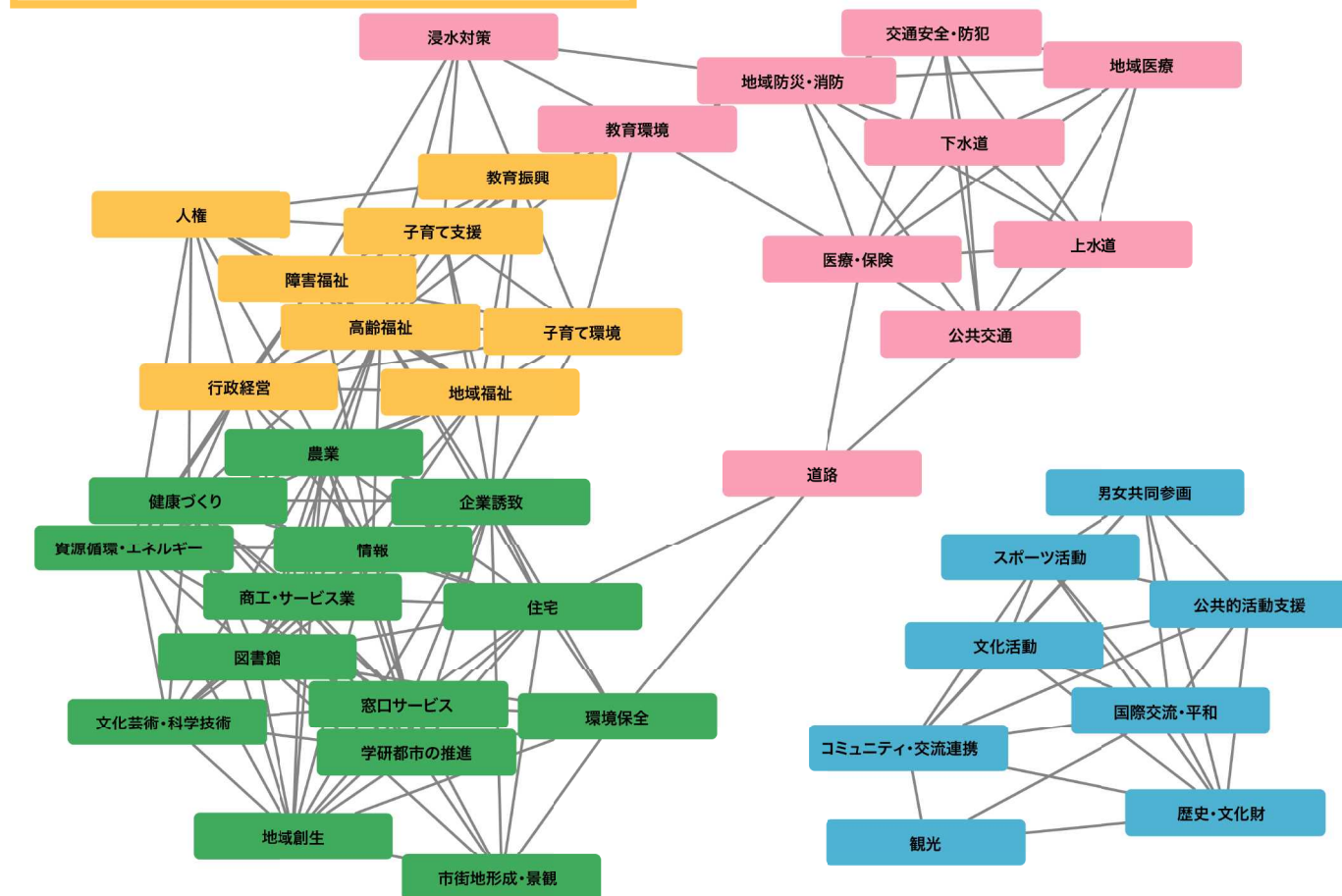
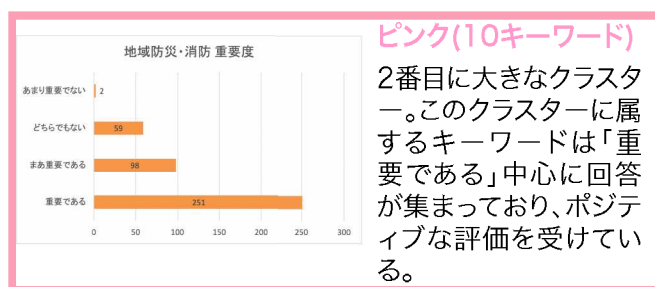
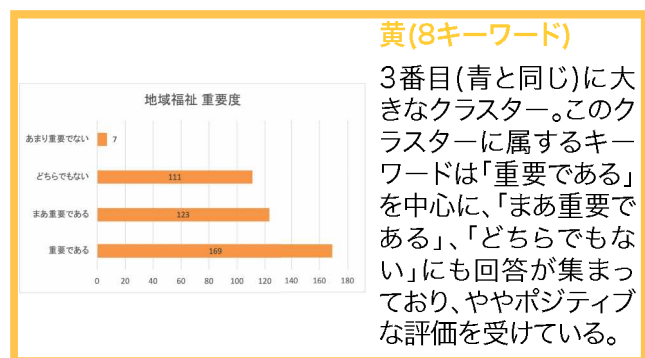
緑(16キーワード)

最も大きなクラスター。このクラスターに属するキーワードは「どちらでもない」中心に回答が集まっており、中間的な評価を受けている。

回答傾向の類似性に基づくネットワーク図

～キーワードに対する満足度～

質問項目「12. 精華町の取り組みについて、「キーワード」に対する現在の「満足度」とこれからのまちづくりの「重要度」についておたずねします。」について、4段階で評価された重要度に基づき、回答傾向が類似しているキーワード同士が結ばれたネットワーク図を示す。類似度評価には、ヒストグラムインタセクションを用いて回答分布の一致度を算出した。回答分布の一致度が90%以上であるキーワード間を線で結びネットワーク図を作成した。また、ネットワークに対して解析処理を施し、回答傾向が類似しているキーワードの集団(クラスター)を抽出し、色分けしている。



テンソル分解に基づく地域コミュニティ活動別の属性分析

～性別と年齢～

質問項目「10.地域コミュニティ活動で参加してみたい活動をすべて選んでください。」の各選択肢を選択した回答者ごとに「01. 性別は次のうちどれですか。」と「02. 年齢は次のうちどれですか。」によるクロス集計を作成した。それらをまとめて1つのテンソル(3次元配列)として扱い、テンソル分解(非負値CP分解)を適用することで、それぞれの質問ごとの回答傾向の主要な特徴を抽出した。見出された特徴は第4主成分まで示す。

テンソル(3次元配列のイメージ)

その他	0	0	0	0	1	1	3	1
子育て支援活動	0	0	1	4	7	2	2	0
文化スポーツ活動	1	2	2	6	26	25	13	1
地域づくり活動	0	2	2	6	17	14	10	1
環境美化活動	0	2	2	1	16	12	12	1
防災活動	1	0	3	5	14	12	10	4
高齢者支援活動	0	0	0	0	6	2	6	1
福祉活動	0	0	0	0	3	9	7	0
01 \ 02	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上
男性	0	1	1	4	11	5	4	0
女性	0	5	10	24	29	7	4	0
無回答	0	0	2	0	0	0	0	0

↑「学習・教育活動」を選択した回答者によるクロス集計

特徴量抽出

第1主成分(約48%)

性別は「女性」で、年齢は「50～59歳」の属性を持つ回答者がこの主成分に該当しており、「文化スポーツ活動」、「学習・教育活動」、「地域作り活動」の参加を希望する傾向がある。

第2主成分(約29%)

性別は「男性」で、年齢は「50～59歳」、「60～69歳」、「70～79歳」の属性を持つ回答者がこの主成分に該当しており、「文化スポーツ活動」、「環境美化活動」の参加を希望する傾向がある。

第3主成分(約17%)

性別は「女性」で、年齢は「30～39歳」、「40～49歳」の属性を持つ回答者がこの主成分に該当しており、「子育て支援活動」、「学習・教育活動」の参加を希望する傾向がある。

第4主成分(約6%)

性別は「女性」で、年齢は「60～69歳」の属性を持つ回答者がこの主成分に該当しており、「地域づくり活動」、「高齢者支援活動」の参加を希望する傾向がある。

研究代表者

新庄雅斗（大阪成蹊大学データサイエンス学部）

研究協力者

武内奎太（京都府立大学大学院）